様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　８ 日現在

機関番号：１３９０１
研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）
研究期間：2016～2020
課題番号：１６Ｈ０６４０９

研究課題名（和文）ホモ・サピエンスのアジア定着期における行動様式の解明

研究課題名（英文）Dynamism of Human Behavior during the Dispersal of Homo sapiens into Asia

研究代表者
門脇　誠二（Kadowaki, Seiji）

名古屋大学・博物館・教授

研究者番号：００５７１２３３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　87,400,000円

研究成果の概要（和文）：アフリカからアジアへ拡散した新人が創出した文化の多様性を明らかにするために、幾つかの重点地域（西アジア、北アジア、東南アジア、東アジア）で遺跡調査を行い、当時の人類行動に関する一次資料を収集した。それを用いて、道具製作や資源利用、居住移動、社会関係などの行動復元を行った。その際に、年代測定や古環境分析と連携し、行動の時間的位置づけや環境条件を明らかにすると共に、民族誌研究とも連携してより具体的な行動推定を行った。その結果を基に、アジアにおける新人文化の時間的地理的多様性を旧人の絶滅と関連させて説明するため、文化進化と生態学の理論に基づく数理モデル（生態文化分布拡大モデル）を提唱した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、現存する唯一の人類ホモ・サピエンス（新人）の文化的起源を探るものである。こうした研究は世界各地で数多く行われているが、従来はアジアに焦点を当てた研究が限られていた。本研究はアジア各地で遺跡調査を行い、オリジナルの考古資料の学際研究を通して、アジアの多様な環境に拡散した新人が多様な文化を創出しながら適応していった姿を具体的に描き、その成果を国内外に広く発信した。新人の起源や旧人の絶滅など人類進化に関する研究は、ヨーロッパやアフリカ地域、生物学的側面が注目されがちであるが、本研究はアジアにおける文化的側面に関する新知見を数多く提供し、よりバランスの取れた人類進化史の構築に貢献した。

研究成果の概要（英文）：This project aimed to clarify Paleolithic cultural diversity that occurred in association with the dispersals of anatomically modern humans from Africa to Asia. For this purpose, we conducted archaeological investigations in several key areas in Asia (West Asia, North Asia, Southeast Asia, and East Asia) to collect original records about past human behaviors, such as tool production, resource use, residential mobility, and social relations. We collaborated with chronometric, paleoenvironmental, and ethnographic studies to clarify temporal, environmental, and cultural contexts of the past human behaviors. Based on the results of these studies, we proposed a new mathematical model called “the ecocultural range expansion model” that is grounded on cultural evolutionary and ecological theories in order to explain temporal and geographical diversity of Paleolithic cultures in relation to the dispersals of modern humans and the concomitant demise of archaic humans.

研究分野：考古学

キーワード：考古学　先史学　人類学　アジア　人類進化　旧石器時代　ホモ・サピエンス

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

ホモ・サピエンス（新人）の起源に関する研究は 1980 年代以降に急速に進展した。その中で明らかになったのは、新人のどの特徴かよって、答えは異なるということである。例えば現状の証拠によると、新人の骨格形態の特徴は、約 30 万～20 万年前頃のアフリカで出現し始めた。一方、新人の遺伝学的特徴の起源については、旧人ネアンデルタールやデニソワの系統と分岐した年代が少なくとも 55 万年前までさかのぼると見積もられている。それに対し、新人の文化的特徴はいつ、どこで、どのように発達したのか？この最後の問いが、本研究の根本課題である。

新人の文化的特徴に関する従来の研究は、旧人から区別される新人特有の行動（現代人的行動）に注目してきた。具体的には、新人の骨格・遺伝学的起源地であるアフリカの中期石器時代に発達した石器技術（小型の狩猟具など）や骨器、装身具などが、「現代人的行動」の考古記録とされた。そして、こうした「現代人的行動」が、新人の地理分布拡大に伴ってアフリカ以外の地域にも拡散したと解釈されてきた。

しかし一方で、アフリカにおける「現代人的行動」の出現は散発的・不連続にすぎないことも指摘されていた。そして、アフリカからヨーロッパやアジアへ「現代人的行動」が拡散した実証例はほとんどなく、逆にヨーロッパやアジアに特有な新人文化（装飾品、壁画、航海技術、落とし穴猟など）を示す考古記録が増え始めていた。

２．研究の目的

こうした最新の考古学研究によると、新人の文化的特徴の起源は、骨格・遺伝学的特徴の起源と一致するとは限らない可能性が高い。つまり、新人の生物学的起源はアフリカかもしれないが、文化や行動の起源はそうとは限らない。この新たな可能性を踏まえ、本研究は、アジアに拡散・定着した頃の新人の行動に関する考古記録をより体系的に収集・検討する。そして、それを基に、当時の文化動態パタンを抽出することによって、新人の行動的特徴が、アジアにおいて形成されたプロセスを明らかにすることが、本計画の目的である。

本計画研究が参画する新学術領域研究「パレオアジア文化史学」の全体目標は、アジアの新人文化形成プロセスの解明である。その中で本計画班は、パレオアジアの新人文化の多様性を詳細に検討するため、各種行動の解析を行う。具体的には、新人がアジアへ拡散・定着した時期（約 10 万～2 万年前）に残された考古遺跡の記録から、当時の人々の行動の諸側面の特徴を抽出し、地域ごとにその変遷パタンを明らかにする。そして、他の計画研究との連携を通し、アジアにおける新人の行動的特徴が形成された過程の地域的パタンを導くと共に、そのモデル化を目指す。

３．研究の方法

アジアに新人が拡散・定着した時期としては、約 10 万～2 万年前頃を想定し、この時期（中期旧石器時代～後期旧石器時代）の考古遺跡を研究対象とする。データの収集方法としては、幾つかの重点地域（西アジア、北アジア、東南アジアなど）において遺跡調査を行い、新たな考古記録を得る。また、文献探査も補完的に行い、アジア全体における考古記録（特に人類行動に関わる面）の集成をする。

これらの考古記録を用いて人類行動の解析を行う方法としては、特に（1）道具製作（主に石器）、（2）資源利用（陸・水生資源）、（3）居住・移動、（4）社会関係（墓・炉・象徴品）に関する行動記録を抽出し、地域ごとの多様性や変遷パタンを明らかにする。

この分析結果の解釈にあたっては、新人の地理分布拡大パタンに関するデータ（A01 班）とアジア各地の古環境に関するデータ（A03 班）と照合することによって、新人がアジア各地に拡散・定着していく過程の中で、どのように文化や行動を維持、革新あるいは（旧人文化と）融合させたか、という問題について考察する。そして、この解釈結果を、現象数理学および文化人類学の理論（項目 B）に照らし合わせることによって、アジア各地において多様な新人文化が出現した現象を、人類の移動や環境適応、異文化交流という要素から構成される歴史プロセスとして提示する。

４．研究成果

（１）遺跡と資料調査

本研究に不可欠の一次標本を採取するためにアジア各地で遺跡調査を行った。調査地は、西アジア（ヨルダン）、北アジア（モンゴル）、東南アジア（インドネシア）、東アジア（北海道）である。西アジアは出アフリカした新人がユーラシアへさらに分布拡した起点となった地域である。北アジアは、新人が最初に出現した亜熱帯サバンナとは気候が大きく異なる地域である。東南アジアは温暖であるが、サバンナではなく森林が広がる。また、アフリカから来たホモ・サピエンスが西太平洋諸島という新たな環境に出会った場所である。このようにユーラシア北部を拡散した新人集団とユーラシア南部を拡散した集団は大きく異なる環境を経験した。それらの集団が東へ拡散を続けた先が日本列島を含む東アジアである。このように、遺跡調査を行った重点地域は、新人拡散の多様性やプロセスをバランスよくサンプリングするような地域になって

図 1：本研究が調査した遺跡周辺の景観。ヨルダン（左下）、モンゴル（左上）、インドネシア（右下）、北海道（右上）。

いる。

上記の地域において遺跡調査を 2016～2019 年度に行った。2020 年度はコロナ禍のために実施することができなかったが、それ以前の調査で得られていた標本の分析や成果のとりまとめを進めることで対応した。遺跡調査では、他の計画研究班との連携も行った。具体的には、他班のメンバーが遺跡調査に参加し、年代測定や古環境分析、資源利用に関する分析に必要な標本の収集や現地観察を行った。例えば、ヨルダンやモンゴル、インドネシアの調査には A03 班の地球科学研究者が参加し、光ルミネッセンス年代測定と古環境分析に必要な試料のサンプリングを行った。現場の状況や考古学の問題意識を踏まえてサンプリング方法を決定したことにより、分析結果の査定や考古学的解釈を効率的に行うことができた。ヨルダンの遺跡調査には、研究項目 B のメンバーも参加した。B01 班の文化人類学者は、ヨルダンの遺跡周辺における水場や鳥罠猟に関する民族調査を行った。また、B02 班の数理科学者もヨルダン調査に参加した。考古記録がデータ化や解釈される以前の一次資料が収集される現場を数理科学者が見ることは非常に有益であった。考古記録や考古学的課題に対する理解を深めてもうことができ、そのどのような部分を数理モデルに利用することができるかが明確になった。その結果、新人拡散期の文化動態を数理モデルで説明する「生態文化分布拡大モデル」に関する共著論文 2 本を国際誌に掲載することができた。この成果の詳細は後述する。

海外の遺跡調査で収集された石器や骨などのほとんどは持ち出しが規制されているため、現地で記録される必要がある。そのため、遺跡発掘以外に、遺物整理のためにも海外渡航が行われた。それ以外には、海外の研究機関に保管されている資料の調査や分析機器の使用のために海外渡航が行われた（ドイツのチュービンゲン大学、中国黒竜江省博物館、大慶博物館、雲南大学など）。

（２）考古記録を用いた人類行動の復元研究

遺跡発掘や資料調査によって収集された石器や骨などのサンプルの整理と分析は、海外と日本の両方で行った。研究標本の大半を占める石器は、技術形態学的な分類と属性記録を行い、重要な標本について写真撮影や実測図の作成を行った。日本に持ち帰ることができた石器標本については、刃部長さの計測や石材の岩石学的分析なども行った。これらの分析は時間と労力がかかり、顕微鏡や分析機器も必要であるため、現地では実施することが難しい。これらの分析を通して、石器の刃部獲得効率や石材選択に関する貴重な記録を得ることができた。また、ヨルダンとインドネシアの調査で得られた石器に対して使用痕分析を行った。ヨルダンの乾燥地帯では皮の加工に石器が主に用いられた一方、インドネシアの森林帯では植物加工に用いられた頻度が高いことが明らかになった（Fuentes et al. 2019; Kadowaki et al. 2019）。

動物遺存体（骨や歯、貝殻）の分析としては、形態に基づいて生物学的分類や部位などの同定が行われた。それを通して、どのような動物資源が利用されていたかが分かる。モンゴルとインドネシアの遺跡調査では保存の良い動物遺存体が収集された（出穂 2020; 小野 2020）。また、中国の博物館等で調査された更新世の動物化石の保存も良好であった（高橋 2019）。

その一方、ヨルダンの遺跡における動物遺存体の保存は悪く、形態による同定が難しい破片が多かった。そのため、骨や歯のタンパク質（コラーゲン）を分析し、アミノ酸配列を読み取ることによって種を同定する分析を公募研究として採用した（中沢 2020）。その結果、ヤギとヒツジを区別する指標やガゼルを同定する指標を新たに発見し、ヨルダンとアゼルバイジャンの遺跡出土の動物遺存体に適用することに成功した。

有蹄類遺存体の安定同位体分析も進めた。有蹄類遺存体の酸素と炭素の安定同位体比には、摂取された水分や植物の安定同位体比が反映されており、それは気温や植生を推測する根拠となる。この分析結果の解釈には、試料の生物学的分類が明らかでなければならないため、タンパク質分析による種同定も組み合わせて行った。その結果を国際誌で発表した（Naito et al. 2022）。

（３）他の計画研究との共同研究

一部の試料分析は、他の研究計画と共同で進めた。例えば、遺跡の年代測定や古環境の分析には A03 班の協力を得た。水や食料、道具素材の資源利用については、B01 班（文化人類学）との共同研究を進めた。ストーンボイリングに関する民族誌調査も行った（山田・中沢 2017）。ヨルダンの遺跡周辺の水場と鳥罠猟に関する民族誌の分析も進めた。また、小型動物の利用に関する

民族誌の分析を行った。東南アジアにおける植物資源の利用について民族考古学的研究を進めた。

ヨルダンとモンゴルの遺跡からはビーズが収集されたが、その分析において B01 班（文化人類学）と協同した。民族誌にみられるビーズの多様性や様々な社会的機能について知ることができた。それに基づき、旧石器時代のビーズの社会的機能に関する考察を行った。

B02 班（数理科学）からは、石器の技術形態に関する統計解析の協力を得た。また、新人の拡散プロセスについて考古学からの推測とゲノム研究から推測がどのように照合されるのか、という点について議論を行った。

（4）生態文化分布拡大モデルの考古記録への適用

B02 班と A02 班の共同研究として、生態文化分布拡大モデルの考古記録への適用を行った（Wakano et al. 2018; Wakano and Kadowaki 2021）。このモデルは、新人がアフリカから拡散した際の旧人との関係や文化変化を包括的に説明する理論的枠組みである（図 2）。具体的には、新人のユーラシア拡散と定着のプロセスに大きく 2 段階（旧人と共存した段階と、旧人が絶滅した段階）が生じた理由について、文化進化理論に基づく数理モデルを世界で初めて示した。

このモデルは 2 つの人類集団（旧人と新人）の空間分布動態を反応拡散方程式によって表現するとともに、集団間の資源競争による人口密度の変化を示している。また、人口密度は、文化（環境収容力に寄与する技術）とフィードバック関係を持つように設定されている。

この数理解析の結果、人口密度と文化に 2 つの状態が生じることが明らかになった。1 つは、新人と旧人の集団が生態学的ニッチの違いにより共存する低人口・低文化状態である（第 1 波）。2 つ目は、新人の集団において、環境収容力に寄与する技術が人口密度と共に高まり、一方の旧人集団は減少する状態である（第 2 波）。

このモデルが示す第 1 波は、新人が初めて出アフリカして西アジアに拡散した段階や、西アジアからヨーロッパ、北アジアそして南ユーラシアにさらに拡散した段階の初期に相当する。各地で年代は異なるが、約 19 万～4.5 万年前の間である。この時は、旧人ネアンデルタールと同じ石器技術（ルヴァロワ方式）やそれに類似した石器技術（上部旧石器時代初期）が用いられていた。この段階では、新人と旧人の間で文化の差が小さく、小規模な新人集団が旧人とのニッチの違いを利用して分布拡大したと説明される。文化差が小さいので交流・交雑があったとことも理解できる。

次の第 2 波は、新人が各地の環境に応じた資源利用を発達させ、人口を増加させた段階に相当

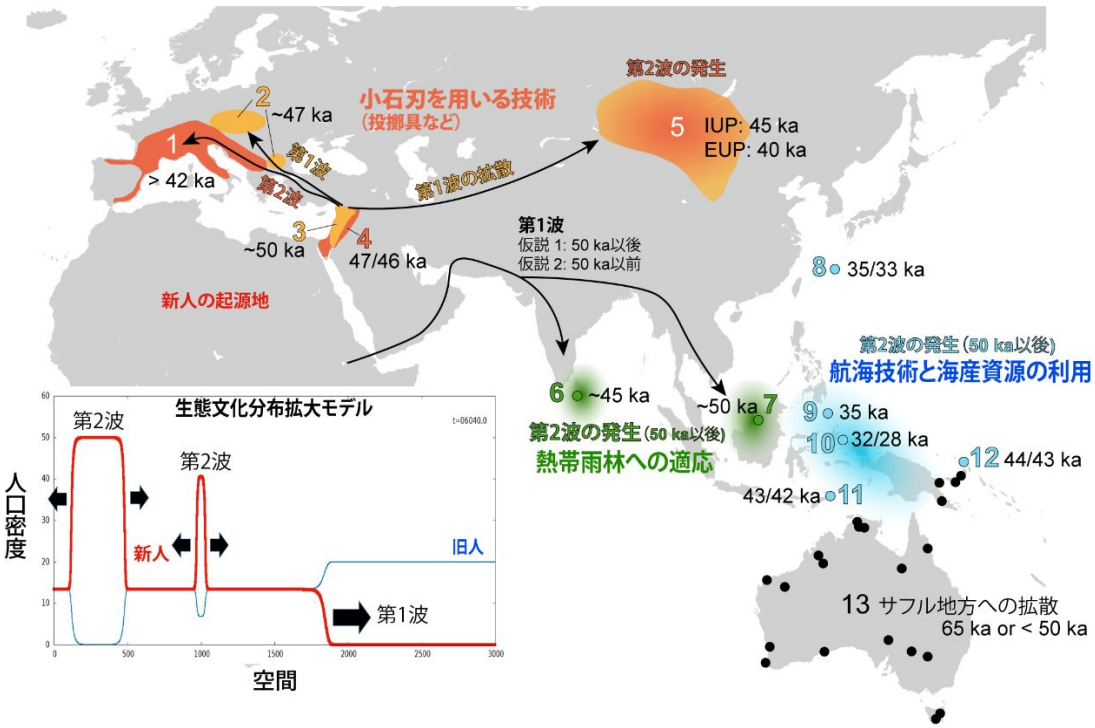

図 2： 新人の出アフリカとユーラシアへの拡散を示す模式図。第 1 波では、小規模な新人集団がシンプルな技術で拡散し、旧人と交流・交雑した。第 2 波では、環境収容力に寄与する技術の発達に支えられて新人集団が増加し、旧人を同化・吸収した。2 つの拡散波に対応する考古記録の年代を ka（千年前）で示す。左下の挿図グラフは、生態文化分布拡大モデルのスナップショット。赤線が新人の分布を示し、青線が旧人の分布を示す。第 1 波では両集団の人口が均衡するのに対し、第 2 波の場所では新人が急増した一方で旧人は減少・絶滅している（Wakano and Kadowaki 2021 を改変）。

する。例えば、ヨーロッパや西・中央・北アジアでは、小石刃と呼ばれる石器が多用されるようになった。小石刃は投擲具（とうてきぐ）などに用いられたと考えられている。また、南方では熱帯林の動物（サルなど）や植物資源が食料や道具素材として利用された。海洋諸島域では航海技術を発達させてたくさんの島々が開拓され、マグロなど遠洋魚を含む海産資源の獲得が増加した（小野 2017）。こうした技術行動の発達に支えられて増加した新人集団が、旧人のニッチにも深く侵入することにより、旧人が同化・吸収されたと説明される。

新学術領域研究としてのパレオアジア文化史学の目的は、アジアに拡散した新人の文化形成過程を解明するために、過去の証拠に基づく実証的解析（項目 A）と現在の証拠に基づく理論的解析（項目 B）を組み合わせることであった。生態文化分布拡大モデルの考古記録への適用は、この目的に適う成果といえる。

本研究の活動と成果は、下記の年度報告にまとめられている。

門脇誠二編（2017）『ホモ・サピエンスのアジア定着期における行動様式の解明』1（「パレオアジア文化史学」計画研究 A02 班 2016 年度研究報告）
http://paleoasia.jp/wp-content/uploads/2017/04/2756cc1cbf198d94586d91a777a1018a.pdf

門脇誠二編（2018）『ホモ・サピエンスのアジア定着期における行動様式の解明』2（「パレオアジア文化史学」計画研究 A02 班 2017 年度研究報告）
http://paleoasia.jp/wp-content/uploads/2018/04/A02_2017.pdf

門脇誠二編（2019）『ホモ・サピエンスのアジア定着期における行動様式の解明』3（「パレオアジア文化史学」計画研究 A02 班 2018 年度研究報告）
http://paleoasia.jp/wp-content/uploads/2019/03/A02_-Annual-Report2018.pdf

門脇誠二編（2020）『ホモ・サピエンスのアジア定着期における行動様式の解明』4（「パレオアジア文化史学」計画研究 A02 班 2019 年度研究報告）
http://paleoasia.jp/wp-content/uploads/2020/03/4C_A02_4_all_light.pdf

門脇誠二編（2021）『ホモ・サピエンスのアジア定着期における行動様式の解明』5（「パレオアジア文化史学」計画研究 A02 班 2020 年度研究報告）
http://paleoasia.jp/wp-content/uploads/2021/04/4C_A02_5_all_2.pdf

<引用文献>

Fuentes, R. et al. (2019) Technological and behavioural complexity in expedient industries: the importance of use-wear analysis for understanding flake assemblages. *Journal of Archaeological Science*, 112: 105031

Kadowaki, S. et al. (2019) Lithic technology, chronology, and marine shells from Wadi Aghar, southern Jordan, and Initial Upper Paleolithic behaviors in the southern inland Levant. *Journal of Human Evolution*, 135: 102646.

Naito et al. (2022) Paleoenvironment and human hunting activity during MIS 2 in southern Jordan: Isotope records of prey remains and paleosols. *Quaternary Science Reviews*, 282: 107432.

Wakano, J.Y., W. Gilpin, S. Kadowaki, M.W. Feldman, and K. Aoki (2018) Ecocultural range-expansion scenarios for the replacement or assimilation of Neanderthals by modern humans. *Theoretical Population Biology*, 119: 3–14.

Wakano, J.Y. and S. Kadowaki (2021) Application of the ecocultural range expansion model to modern human dispersals in Asia. *Quaternary International*, 596: 171–184.

出穂雅実（2020）「北東アジアにおける現生人類の居住年代と行動を復元する際の諸問題（2019 年度）」『ホモ・サピエンスのアジア定着期における行動様式の解明 4（「パレオアジア文化史学」計画研究 A02 班 2019 年度研究報告）』門脇誠二編：7–14。

小野林太郎（2017）『海の人類史 東南アジア・オセアニア海域の考古学』環太平洋文明叢書 5、雄山閣。

小野林太郎（2020）「ウォーレシアにおける初期サピエンスの移住年代・石器利用・動物利用：スラウェシ島・トポガロ洞窟遺跡の事例から」『ホモ・サピエンスのアジア定着期における行動様式の解明 4（「パレオアジア文化史学」計画研究 A02 班 2019 年度研究報告）』門脇誠二編：15–26。

高橋啓一（2019）「中国東北部～北部におけるマンモス－ケサイ動物群と北方系細石刃石器群」『ホモ・サピエンスのアジア定着期における行動様式の解明 3（「パレオアジア文化史学」計画研究 A02 班 2018 年度研究報告）』門脇誠二編：30–34。

中沢　隆（2020）「Tor Hamar 遺跡の動物の歯から抽出したコラーゲンの化学処理と質量分析による動物種判定」『ホモ・サピエンスのアジア定着期における行動様式の解明 4（「パレオアジア文化史学」計画研究 A02 班 2019 年度研究報告）』門脇誠二編：40–44。

山田仁史・中沢祐一（2017）「ストーンボイリングおよび関連した文化革新／退行についての民族誌データ」『文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研 2016–2020：パレオアジア文化史学第 4 回研究大会』東京大学、2017 年 12 月 9–10 日　（予稿集 32 頁）。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計87件（うち査読付論文　66件／うち国際共著　48件／うちオープンアクセス　7件）

１．著者名 Davis, L.G., D.B. Madsen, D.A. Sisson, and M. Izuho	４．巻 7(1)
２．論文標題 Response to review of “Late Upper Paleolithic occupation at Cooper’s Ferry, Idaho, USA, ~16,000 years ago” by Fiedel et al	５．発行年 2020年
３．雑誌名 PaleoAmerica	６．最初と最後の頁 43-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/20555563.2020.1788863	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 Fuentes Riczar、Ono Rintaro、Carlos Jane、Kerfant Celine、Sriwigati、Miranda Tatiana、Aziz Nasrullah、Sofian Harry Octavianus、Pawlik Alfred	４．巻 30
２．論文標題 Stuck within notches: Direct evidence of plant processing during the last glacial maximum to Holocene in North Sulawesi	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Journal of Archaeological Science: Reports	６．最初と最後の頁 102207-102207
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jasrep.2020.102207	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 飯塚文枝・P．バンディバー・森先一貴・出穂雅実・沖田純一郎・M．アルデンダーファー	４．巻 50
２．論文標題 縄文時代草創期の土器製作技術と変異性に関する基礎的研究（4）―鹿児島県西之表市（種子島北半）鬼ヶ野遺跡，二本松遺跡，および奥ノ仁田遺跡の事例―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 鹿児島考古	６．最初と最後の頁 221-233
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 Miyahara Yuya、Shintani Koya、Hayashihara-Kakuhou Kayoko、Zukawa Takehiro、Morita Yukihiro、Nakazawa Takashi、Yoshida Takuya、Ohkubo Tadayasu、Uchiyama Susumu	４．巻 10
２．論文標題 Effect of UVC Irradiation on the Oxidation of Histidine in Monoclonal Antibodies	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Scientific Reports	６．最初と最後の頁 6333
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41598-020-63078-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Naito Yuichi I.、Meleg Ioana N.、Robu Marius、Vlaicu Marius、Drucker Dorothee G.、WiBing Christoph、Hofreiter Michael、Barlow Axel、Bocherens Herve	4．巻 10
2．論文標題 Heavy reliance on plants for Romanian cave bears evidenced by amino acid nitrogen isotope analysis	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Scientific Reports	6．最初と最後の頁 6612
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41598-020-62990-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Meleg, I. N., Y. I. Naito, H. Bocherens	4．巻 -
2．論文標題 [Behind the Study] Herbivory in Carnivora: The case of emblematic cave bears	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Nature Ecology and Evolution	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 中沢祐一	4．巻 153
2．論文標題 神子柴系石器群における遺跡形成過程	5．発行年 2020年
3．雑誌名 季刊考古学	6．最初と最後の頁 81-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中沢祐一	4．巻 2
2．論文標題 4万年前以前の日本列島人類存否問題へのパースペクティヴ	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Communications of the Palaeo Perspective 旧石器時代研究への視座	6．最初と最後の頁 28-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Nakazawa Yuichi	4．巻 5
2．論文標題 The Pre-Clovis Peoples	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Inference: International Review of Science	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.37282/991819.20.13	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Nakazawa Yuichi、Akai Fumito	4．巻 45(3)
2．論文標題 The Last Glacial Maximum Microblades from Kashiwadai 1 in Hokkaido, Japan	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Lithic Technology	6．最初と最後の頁 127-139
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/01977261.2020.1734755	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Nakazawa Yuichi、Kobayashi Sachio、Yurimoto Hisayoshi、Akai Fumito、Nomura Hidehiko	4．巻 535
2．論文標題 A systematic comparison of obsidian hydration measurements: The first application of micro-image with secondary ion mass spectrometry to the prehistoric obsidian	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Quaternary International	6．最初と最後の頁 3-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.quaint.2018.05.039	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Ono Rintaro、Fuentes Riczar、Pawlik Alfred、Sofian Harry Octavianus、Sriwigati、Aziz Nasrullah、Alamsyah Nico、Yoneda Minoru	4．巻 554
2．論文標題 Island migration and foraging behaviour by anatomically modern humans during the late Pleistocene to Holocene in Wallacea: New evidence from Central Sulawesi, Indonesia	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Quaternary International	6．最初と最後の頁 90-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.quaint.2020.03.054	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Yoshida Hidekazu、Kuma Ryusei、Hasegawa Hitoshi、Katsuta Nagayoshi、Sirono Sin-iti、Minami Masayo、Nishimoto Shoji、Takagi Natsuko、Kadowaki Seiji、Metcalfe Richard	4．巻 11
2．論文標題 Syngenetic rapid growth of ellipsoidal silica concretions with bitumen cores	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Scientific Reports	6．最初と最後の頁 4230
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41598-021-83651-w	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Drucker, D., Y.I. Naito, N. Coromina, I. Rufi, N. Soler, and J. Soler	4．巻 154
2．論文標題 Stable isotope evidence of human diet in Mediterranean context during the Last Glacial Maximum	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Journal of Human Evolution	6．最初と最後の頁 102967-102967
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jhevol.2021.102967	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Hirose Masato、Naito Yuichi I.、Kadowaki Seiji、Arai Saiji、Guliyev Farhad、Nishiaki Yoshihiro	4．巻 36
2．論文標題 Investigating early husbandry strategies in the southern Caucasus: intra-tooth sequential carbon and oxygen isotope analysis of Neolithic goats, sheep, and cattle from Goytepe and Haci Elamxanli Tepe	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Journal of Archaeological Science: Reports	6．最初と最後の頁 102869-102869
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jasrep.2021.102869	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Iizuka Fumie、Izuho Masami、Wada Keiji、Barnard Hans、Vandiver Pamela、Morisaki Kazuki、Wendt Carl、Aldenderfer Mark	4．巻 608-609
2．論文標題 Of the sea and volcano: A petrographic provenance investigation of locally produced and imported ware of Pre-Younger Dryas Tanegashima Island, Japan	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Quaternary International	6．最初と最後の頁 88-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.quaint.2020.10.009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Izuho Masami、Iizuka Fumie、Buvit Ian、Konstantinov Mikhail V.	4．巻 608-609
2．論文標題 Problems associated with the age determination of the oldest pottery yielding cultural layers at the Studenoe 1 site, Transbaikal (southern Siberia)	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Quaternary International	6．最初と最後の頁 120-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.quaint.2021.02.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Ono Rintaro、Fuentes Riczar、Amano Noel、Sofian Harry Octavianus、Sriwigati、Aziz Nasrullah、Pawlik Alfred	4．巻 596
2．論文標題 Development of bone and lithic technologies by anatomically modern humans during the late Pleistocene to Holocene in Sulawesi and Wallacea	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Quaternary International	6．最初と最後の頁 124-143
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.quaint.2020.12.045	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Wakano Joe Yuichiro、Kadowaki Seiji	4．巻 596
2．論文標題 Application of the ecocultural range expansion model to modern human dispersals in Asia	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Quaternary International	6．最初と最後の頁 171-184
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.quaint.2020.12.019	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Kadowaki Seiji、Suga Eiki、Henry Donald O.	4．巻 596
2．論文標題 Frequency and production technology of bladelets in Late Middle Paleolithic, Initial Upper Paleolithic, and Early Upper Paleolithic (Ahmarian) assemblages in Jebel Qalkha, Southern Jordan	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Quaternary International	6．最初と最後の頁 4-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.quaint.2021.03.012	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Davis,L. G., D. B. Madsen, L. Becerra-Valdivia, T. Higham, D. A. Sisson, S. M. Skinner, D. Stueber, A. J. Nyers, A. Keen-Zebert, C. Neudorf, M. Cheyney, M. Izuho, F. Iizuka, S. R. Burns, C. W. Epps, S. C. Willis, and I. Buvit	4．巻 365(6456)
2．論文標題 Late Upper Paleolithic occupation at Cooper's Ferry, Idaho, USA, ~16,000 years ago	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Science	6．最初と最後の頁 891-897
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1126/science.aax9830	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Fuentes, R., R. Ono, N. Nakajima, H. Nishizawa, J. Siswanto, N. Aziz, Sriwigati, H. O. Sofian, T. Miranda, and A. Pawlik	4．巻 112
2．論文標題 Technological and behavioural complexity in expedient industries: the importance of use-wear analysis for understanding flake assemblages	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Journal of Archaeological Science	6．最初と最後の頁 105031
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jas.2019.105031	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Kadowaki, S., T. Tamura, K. Sano, T. Kurozumi, L. A. Maher, J. Y. Wakano, T. Omori, R. Kida, M. Hirose, S. Massadeh, and D. O. Henry	4．巻 135
2．論文標題 Lithic technology, chronology, and marine shells from Wadi Aghar, southern Jordan, and Initial Upper Paleolithic behaviors in the southern inland Levant	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Journal of Human Evolution	6．最初と最後の頁 102646
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jhevol.2019.102646	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Nakazawa, Y., A. Iwase, T. Yamahara, and M. Kitazawa	4．巻 515
2．論文標題 A functional approach to the use of the earliest blade technology in Upper Paleolithic Hokkaido, northern Japan	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Quaternary International	6．最初と最後の頁 53-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.quaint.2017.10.049	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Nakazawa, Y., K. Sano, Y. Naoe, N. Sakamoto, M. Izuho, and H. Nomura	4．巻 62
2．論文標題 Role of minimum analytical nodules in obsidian hydration measurement: Insight from Kyu-Shirataki 3 in Hokkaido, Japan	5．発行年 2019年
3．雑誌名 International Association for Obsidian Studies Bulletin	6．最初と最後の頁 8-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 富岡直人・高橋啓一・屋山　洋	4．巻 14
2．論文標題 福岡県南区老司採集ゾウ臼歯の再調査	5．発行年 2019年
3．雑誌名 市史研究ふくおか	6．最初と最後の頁 119-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Watanabe, J., A. Koizumi, R. Nakagawa, K. Takahashi, T. Tanaka and H. Matsuoka	4．巻 39-5
2．論文標題 Seabirds (Aves) from the Pleistocene Kazusa and Shimosa groups, central Japan	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Journal of Vertebrate Paleontology	6．最初と最後の頁 e1697277
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/02724634.2019.1697277	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Izuho, M., K. Morisaki, and H. Sato	4．巻 535
2．論文標題 Recent progress of the Paleolithic research in Asia: Cultural diversities and paleoenvironmental changes	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Quaternary International	6．最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.quaint.2020.01.010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Nakazawa, Y.	4．巻 13
2．論文標題 Have we already tested the aquatic ape hypothesis?	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Ideas in Ecology and Evolution	6．最初と最後の頁 11-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24908/iee.2020.13.2.c	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Nakazawa, Y. and F. Akai	4．巻 45(3)
2．論文標題 The Last Glacial Maximum microblades from Kashiwadai 1 in Hokkaido, Japan	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Lithic Technology	6．最初と最後の頁 127-139
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/01977261.2020.1734755	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Nakazawa, Y., S. Kobayashi, H. Yurimoto, F. Akai and H. Nomura	4．巻 535
2．論文標題 A systematic comparison of obsidian hydration measurements: The first application of micro-image with secondary ion mass spectrometry to the prehistoric obsidian	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Quaternary International	6．最初と最後の頁 3-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.quaint.2018.05.039	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Pratt, J., T. Goebel, K. Graf, and M. Izuho	4．巻 6(1)
2．論文標題 A circum-Pacific perspective on the origin of stemmed points in North America	5．発行年 2020年
3．雑誌名 PaleoAmerica	6．最初と最後の頁 64-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/20555563.2019.1695500	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Izuho, M., N. Zwyns, and K. Sano (eds.)	4．巻 17
2．論文標題 Guest Editorial “Special Issue: The Initial Upper Paleolithic in Asia: assemblages variability, timing and significance”	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Archaeological Research in Asia	6．最初と最後の頁 1-1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/jara.2018.10.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Boulanger, C., T. Ingicco, P.J. Piper, N. Amano, S. Grouard, R. Ono, S. Hawkins and A.F. Pawlik	4．巻 14
2．論文標題 Coastal subsistence strategies and mangrove swamp evolution at Bubog I rockshelter (Ilin Island, Mindoro, Philippines) from the Late Pleistocene to the mid-Holocene	5．発行年 2019年
3．雑誌名 The Journal of Island and Coastal Archaeology	6．最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/15564894.2018.1531957	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Izuho, M., D. Kunikita, Y. Nakazawa, N. Oda, K. Hiromatsu, and O. Takahashi	4．巻 4(2)
2．論文標題 New AMS Dates from the Shukubai-Kaso Site (Loc. Sankakuyama), Hokkaido (Japan): Refining the chronology of small flake-based assemblages during the Early Upper Paleolithic in the Paleo-Sakhalin-Hokkaido-Kurile Peninsula	5．発行年 2018年
3．雑誌名 PaleoAmerica	6．最初と最後の頁 134-150
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/20555563.2018.1457392	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Izuho, M., K. Terry, S. Vasil’ev, M. Konstantinov, and K. Takahashi（連携研究者）	4．巻 17
2．論文標題 Tolbaga revisited: Scrutinizing occupation duration and its relationship with the faunal landscape during MIS 3 and MIS 2	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Archaeological Research in Asia	6．最初と最後の頁 9-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.ara.2018.09.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 門脇誠二	4．巻 720
2．論文標題 博物館における考古学の学際研究	5．発行年 2018年
3．雑誌名 考古学ジャーナル	6．最初と最後の頁 19-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 御堂島正・中沢祐一	4．巻 5
2．論文標題 黒曜岩製石器の使用痕跡に及ぼす水和層の影響	5．発行年 2018年
3．雑誌名 論集忍路子	6．最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Morisaki, K., K. Sano, and M. Izuho	4．巻 17
2．論文標題 Early Upper Paleolithic blade technology in the Japanese Archipelago	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Archaeological Research in Asia	6．最初と最後の頁 79-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.ara.2018.03.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中沢　隆（研究協力者）	4．巻 66
2．論文標題 タンパク質の質量分析と考古学	5．発行年 2018年
3．雑誌名 J. Mass Spectrom. Soc. Jpn	6．最初と最後の頁 214-217
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5702/massspec.S18-43	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Nakazawa, Y., A. Iwase, T. Yamahara, and M. Kitazawa	4．巻 in press
2．論文標題 A functional approach to the use of the earliest blade technology in Upper Paleolithic Hokkaido, northern Japan	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Quaternary International	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/ j.quaint.2017.10.049	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中沢祐一	4．巻 127(5)
2．論文標題 考古一旧石器時代	5．発行年 2018年
3．雑誌名 史学雑誌	6．最初と最後の頁 11-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Ono, R, F. Aziz, A.A. Oktaviana, M. Ririmase, N. Iriyanto, I.B. Zesse, and K. Tanaka	4．巻 35(2)
2．論文標題 Development of pottery making tradition and maritime networks during the Early Metal Ages in Northern Maluku Islands	5．発行年 2018年
3．雑誌名 AMERTA, Journal Penelitian dan Pengembangan Arkeologi	6．最初と最後の頁 109-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/15564894.2017.1395374	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Ono, R., A. Oktaviana, M. Ririmasse, M. Takenaka, C. Katagiri, and M. Yoneda	4．巻 92(364)
2．論文標題 Early Metal Age interactions in Island Southeast Asia and Oceania: jar burials from Aru Manara, northern Moluccas	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Antiquity	6．最初と最後の頁 1023-1039
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15184/aqy.2018.113	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 西藤清秀・山本孝文・飯島武次・田畑幸嗣・出穂雅実・臼杵　勲・千本真生・佐々木憲一・寺崎秀一郎・岡本克之・溝口孝司	4．巻 47
2．論文標題 日本考古学の国際化	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本考古学	6．最初と最後の頁 121-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐藤　暖・中沢　隆（研究協力者）・原田　繁	4．巻 96
2．論文標題 ピリドキ サール酵素はシグマトロピー転位の場を提供する - メチオニン分解酵素の反応機構	5．発行年 2018年
3．雑誌名 生化学	6．最初と最後の頁 121-137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14952/SEIKAGAKU.2018.900791	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 高橋啓一（連携研究者）・楊　平	4．巻 51
2．論文標題 中国黒竜江省ハルビン市周辺のマンモス動物群を訪ねて－中国東北地域の後期更新世哺乳動物群から日本のマンモス動物群を考える－	5．発行年 2019年
3．雑誌名 化石研究会会誌	6．最初と最後の頁 43-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 高橋啓一（連携研究者）・楊　平	4．巻 2019-1
2．論文標題 中国黒竜江省ハルビン市周辺のマンモス動物群を訪ねて（中国語）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 化石	6．最初と最後の頁 49-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Wiβing, C., H. Rougier, I. Crevecoeur, D.G. Drucker, S. Gaudzinski-Windheuser, M. Germonpre, A. Gomez-Olivencia, J. Krause, T. Matthies, Y.I. Naito（連携研究者）, C. Posth, P. Semal, M. Street, and H. Bocherens	4．巻 9
2．論文標題 Stable isotopes reveal patterns of diet and mobility in last Neanderthals and first modern humans in Europe	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Scientific Reports	6．最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41598-019-41033-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 矢原史希・中沢祐一	4．巻 5
2．論文標題 北海道置戸町中里地区収集の細石刃核の検討	5．発行年 2018年
3．雑誌名 論集忍路子	6．最初と最後の頁 91-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Drucker, D.G., Y.I. Naito（連携研究者）, S.Pean, S. Prat, L. Crepin, Y. Chikaraishi, N. Ohkouchi, S. Puaud, M. Laznickova-Galetova, M. Patou-Mathis, A. Yanevich, and H. Bocherens	4．巻 7
2．論文標題 Isotopic analyses suggest mammoth and plant in the diet of the oldest anatomically modern humans from far southeast Europe	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Scientific Report	6．最初と最後の頁 6833
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41598-017-07065-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Horwood, P.F., K.W. Soli, T. Maure, Y.I. Naito（連携研究者）, A. Morita, K. Natsuhara, K. Tadokoro, J. Baba, S. Odani, E. Tomitsuka, K. Igai, J. Larkins, P.M. Siba, W. Pomat, E. McBryde, M. Umezaki, and A.R. Greenhill	4．巻 97-6
2．論文標題 A high burden of asymptomatic gastrointestinal infections in traditional communities in Papua New Guinea	5．発行年 2017年
3．雑誌名 The American Journal of Tropical Medicine and Hygiene	6．最初と最後の頁 1872-1875
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4269/ajtmh.17-0282	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 岩瀬　彬・中沢祐一	4．巻 13
2．論文標題 最終氷期最盛期の北海道における石刃石器群の使用痕分析：川西C遺跡の分析	5．発行年 2018年
3．雑誌名 旧石器研究	6．最初と最後の頁 35-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kadowaki, S. and E.B. Banning	4．巻 19
2．論文標題 Morphometric and refitting analyses of flaked stone artifacts from Tabaqat al-Buma and al-Basatin, northern Jordan: sickle elements and core-reduction technology in the Late Neolithic (6th millennium BCE) in the southern Levant	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Journal of Archaeological Science: Report	6．最初と最後の頁 64-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jasrep.2018.02.014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 門脇誠二	4．巻 141
2．論文標題 現生人類の出アフリカと北廻りでのユーラシア拡散	5．発行年 2017年
3．雑誌名 季刊考古学	6．最初と最後の頁 25-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 門脇誠二	4．巻 708
2．論文標題 レヴァントへの新人拡散と文化動態	5．発行年 2018年
3．雑誌名 考古学ジャーナル	6．最初と最後の頁 6-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 門脇誠二	4．巻 33
2．論文標題 名古屋大学によるアフリカ考古遺跡の調査記録：大参義一教授の写真スライド資料	5．発行年 2018年
3．雑誌名 名古屋大学博物館報告	6．最初と最後の頁 11-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18999/bulnum.033.01	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kuzmin, Y., Y. Nakazawa, and A. Ono	4．巻 442, Part B
2．論文標題 Human behavioral variability in prehistoric Eurasia	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Quaternary International	6．最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.quaint.2017.06.023	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Naito,Y.I.（連携研究者）, Y. Chikaraishi, D.G. Drucker, N. Ohkouchi, P. Semal, C. Wibing, and H. Bocherens	4．巻 117
2．論文標題 Reply to “Comment on “Ecological niche of Neanderthals from Spy Cave revealed by nitrogen isotopes of individual amino acids in collagen.” [J. Hum. Evol. 93 (2016) 82-90]”	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Journal of Human Evolution	6．最初と最後の頁 56-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jhevol.2017.09.008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 中沢　隆（研究協力者）	4．巻 9
2．論文標題 カイコガの種で見る日本の古代養蚕史 ―古代の文献史料から家蚕と天蚕を読み取る―	5．発行年 2017年
3．雑誌名 古代学（奈良女子大学古代学学術研究センター）	6．最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中沢　隆（研究協力者）	4．巻 708
2．論文標題 旧石器時代の動物骨に関するタンパク質考古学的研究	5．発行年 2018年
3．雑誌名 考古学ジャーナル	6．最初と最後の頁 35-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中沢祐一	4．巻 63（3）
2．論文標題 後期旧石器時代のヨーロッパにおける礫群―狩猟採集社会におけるストーンボイリングの役割と意義―	5．発行年 2017年
3．雑誌名 古代文化	6．最初と最後の頁 95-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Nakazawa, Y.	4．巻 58, Supplement 17
2．論文標題 On the Pleistocene population history in the Japanese Archipelago	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Current Anthropology	6．最初と最後の頁 S539-S551
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Nakazawa, Y. and Akai F.	4．巻 442, Part B
2．論文標題 Late-Glacial bifacial microblade core technologies in Hokkaido: An implication of human adaptation along the northern Pacific Rim	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Quaternary International	6．最初と最後の頁 43-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.quaint.2016.07.019	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Ohkouchi, N., Y. Chikaraishi, H.G. Close, B. Fry, T. Larsen, D.J. Madigan, M.D. McCarthy, K.W. McMahon, T. Nagata, Y.I. Naito（連携研究者）, N.O. Ogawa, B.N. Popp, S. Steffan, Y. Takano, I. Tayasu, A.S.J. Wyatt, Y.T. Yamaguchi, and Y. Yokoyama	4．巻 113
2．論文標題 Advances in the application of amino acid nitrogen isotopic analysis in ecological and biogeochemical studies	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Organic Geochemistry	6．最初と最後の頁 150-174
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.orggeochem.2017.07.009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Ono,R. F.Aziz, A. Oktaviana, Prastiningtyas, N. Iriyanto M. Ririmasei, I. B. Zesse, Y. Hisa, and M. Yoneda	4．巻 31(1)
2．論文標題 Development of regional maritime networks during the early metal ages in northern Maluku islands: a view from excavated pottery and glass ornaments	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Journal of Island and Coastal Archaeology	6．最初と最後の頁 98-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/15564894.2017.1395374	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Sato, D., T. Shiba, T. Karaki, W. Yamagata, T. Nozaki, T. Nakazawa（研究協力者）, and S. Harada	4．巻 7
2．論文標題 X-Ray snapshots of a pyridoxal enzyme: a catalytic mechanism involving concerted [1,5]-hydrogen sigmatropy in methionine γ-lyase	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Scientific Reports	6．最初と最後の頁 4874
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41598-017-05032-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Takahashi, K.（連携研究者） and K. Yasui	4．巻 21
2．論文標題 Taxonomic invalidity of Busk’s elephant (Elephas maximus buski Matsumoto, 1927) demonstrated by AMS 14C dating	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Paleontological Research	6．最初と最後の頁 195-202
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高橋啓一（連携研究者）	4．巻 50
2．論文標題 古琵琶湖層群の陸上脊椎動物化－日本の鮮新－更新世の動物相における意義	5．発行年 2017年
3．雑誌名 化石研究会会誌	6．最初と最後の頁 48-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Wakano, J.Y., W. Gilpin, S. Kadowaki, M.W. Feldman, and K. Aoki	4．巻 119
2．論文標題 Ecocultural range-expansion scenarios for the replacement or assimilation of Neanderthals by modern humans	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Theoretical Population Biology	6．最初と最後の頁 3-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.tpb.2017.09.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Buvit, I., M. Izuho, K. Terry, M. V. Konstantinov, and A. V. Konstantinov	4．巻 425
2．論文標題 Radiocarbon dates, microblades and Late Pleistocene human migrations in the Transbaikal, Russia and the Paleo-Sakhalin-Hokkaido-Kuril Peninsula	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Quaternary International	6．最初と最後の頁 100-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.quaint.2016.02.050	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Buvit, I., M. Izuho, K. Terry, M. V. Konstantinov, and A. V. Konstantinov	4．巻 425
2．論文標題 Corrigendum to “radiocarbon dates, microblades and Late Pleistocene human migrations in the Transbaikal, Russia and the Paleo-Sakhalin-Hokkaido-Kuril Peninsula	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Quaternary International	6．最初と最後の頁 120-139
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.quaint.2016.06.035	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 飯塚文枝・出穂雅実・パメラ　バンディバー・大久保浩二	4．巻 9
2．論文標題 鹿児島県中種子町三角山Ⅰ遺跡出土縄文草創期土器の成形技術とその変異性の研究	5．発行年 2016年
3．雑誌名 研究紀要・年報　縄文の森から	6．最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 門脇誠二	4．巻 44-10
2．論文標題 揺らぐ初期ホモ・サピエンス像―出アフリカ前後のアフリカと西アジアの考古記録から	5．発行年 2016年
3．雑誌名 現代思想	6．最初と最後の頁 112-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 門脇誠二・ドナルド　ヘンリー・サタ　マサデ・廣瀬允人	4．巻 24
2．論文標題 ホモ・サピエンスの拡散・定着期における文化動態―南ヨルダン、カルハ山の旧石器遺跡調査（2016年）	5．発行年 2017年
3．雑誌名 西アジア発掘調査報告会報告集	6．最初と最後の頁 22-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Kadowaki, S., K. Ohnishi, S. Arai, and Y. Nishiaki	4．巻 27-2
2．論文標題 Mitochondrial DNA analysis of ancient domestic goats in the Southern Caucasus: a preliminary result from Neolithic settlements at Goytepe and Haci Elamxanli Tepe	5．発行年 2017年
3．雑誌名 International Journal of Osteoarchaeology	6．最初と最後の頁 245-260
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/oa.2534	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Kadowaki, S.	4．巻 38
2．論文標題 Technology of striking platform preparation on lithic debitage from Wadi Aghar, southern Jordan, and its relevance to the Initial Upper Palaeolithic technology in the Levant	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Al-Rafidan	6．最初と最後の頁 23-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 内藤裕一	4．巻 17(2)
2．論文標題 ベジタリアンのホラアナグマ：その絶滅要因は何か？	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Bears Japan	6．最初と最後の頁 21-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 内藤裕一	4．巻 87(2)
2．論文標題 アイソトープを使い先史日本列島人の暮しを窺う	5．発行年 2017年
3．雑誌名 科学	6．最初と最後の頁 158-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Naito, Y.I., M. Germonpre, Y. Chikaraishi, N. Ohkouchi, D.G. Drucker, K.A. Hobson, M.A. Edwards, C. Wibing, and H. Bocherens	4．巻 31
2．論文標題 Evidence for herbivorous cave bears (Ursus spelaeus) in Goyet Cave, Belgium: Implications for paleodietary reconstruction of fossil bears using amino acid δ15N approaches	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Journal of Quaternary Science	6．最初と最後の頁 598-606
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/jqs.2883/full	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 小野林太郎	4．巻 72
2．論文標題 鋸歯印文土器―オーストロネシア語族の拡散を語る土器	5．発行年 2017年
3．雑誌名 貝塚	6．最初と最後の頁 27-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Shutoh, K., S. Kaneko, K. Suetsugu, Y.I. Naito, and T. Kurosawa, T.	4．巻 103
2．論文標題 Variation in vegetative morphology tracks the complex genetic diversification of the mycoheterotrophic species Pyrola japonica sensu lato	5．発行年 2016年
3．雑誌名 American Journal of Botany	6．最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3732/ajb.1600091	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 島口 天・高橋 啓一	4．巻 49
2．論文標題 青森県内で採集されたウマ標本のAMS14C年代	5．発行年 2016年
3．雑誌名 化石研究会会誌	6．最初と最後の頁 82-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Straus, L.G., I. Buvit, K. Terry, and M. Izuho	4．巻 425
2．論文標題 The Last Glacial Maximum in northern Eurasia: Environments and human adaptations	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Quaternary International	6．最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.quaint.2016.11.040	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 高橋啓一・島口　天・馬場理香・北川博道	4．巻 49
2．論文標題 青森県陸奥湾から産出した長鼻類化石の再検討	5．発行年 2016年
3．雑誌名 化石研究会会誌	6．最初と最後の頁 87-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Takahashi, K. and K. Yasui	4．巻 22
2．論文標題 Taxonomic invalidity of Busk's elephant (Elephas maximus buski Matsumoto, 1927) demonstrated by AMS 14C dating	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Paleontological Research	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Wibing, C., H. Rougier, I. Crevecoeur, M. Germonpre, Y.I. Naito, P. Semal, and H. Bocherens	4．巻 411
2．論文標題 Isotopic evidence for dietary ecology of Late Neandertals in North-Western Europe	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Quaternary International	6．最初と最後の頁 327-345
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.quaint.2015.09.091	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕　計178件（うち招待講演　11件／うち国際学会　70件）

1．発表者名 Belmaker, M., T. Tamura, and S. Kadowaki
2．発表標題 Modern human adaptability to hot and dry environments: The faunal evidence from Tor Hamar F, Southern Jordan
3．学会等名 2019 annual meeting of Paleoanthropology Society（国際学会）
4．発表年 2019年

１．発表者名 Christopher, G. J. and M. Izuho
２．発表標題 Upper Paleolithic cultural landscapes of the Selenge Tributaries, northern Mongolia
３．学会等名 SAA 84th Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Gallo, G., M. Fyhrie, C. Paine, S. Ushakiv, M. Izuho, B. Gunchinsuren, N. Zwyns, and A. Navrotsky
２．発表標題 Differential preservation of burnt bone: Impacts on the visibility of anthropogenic fire in the Upper Paleolithic Taiga Steppe
３．学会等名 9th Annual ESHE (European Society for the study of Human Evolution)Meeting（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Hasegawa, H., N. Noma, N. Katsuta, M. Murayama, T. Tamura, M. Izuho, N. Ichinnorov, D. Davaadorj, N. Hasebe, M. Sasaoka, and M. Iwai
２．発表標題 Paleoenvironmental changes recorded in Orog Lake, southwestern Mongolia during MIS 3 and its relationship with Homo sapiens’s migration into northern Asia.（モンゴル南西部オログ湖堆積物から復元される最終氷期～完新世の古環境 変動とホモ・サピエンス定着との関係性）
３．学会等名 JpGU Meeting 2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Hasegawa H., N. Noma, N. Katsuta, M. Murayama, T. Tamura, M. Izuho, N. Ichinnorov, D. Davaadorj, M. Sasaoka, N. Hasebe, and M. Iwai
２．発表標題 Paleoenvironmental reconstruction of southwestern Mongolia since the MIC 3: evidence from Lake sediment record and comparison with archaeological record
３．学会等名 20th Congress of the International Union for Quaternary Research (INQUA)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Iizuka, F., P. Vandiver, K. Morisaki, M. Izuho, and M. Aldenderfer
２．発表標題 Ceramic, lithic, and settlement variability of the Incipient Jomon Sites on Tanegashima Island, Japan
３．学会等名 SAA 84th Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 犬塚ま子・伊藤優貴・苅野茉央・山田里奈・藪中　遥・門脇誠二・西秋良宏・中沢　隆
２．発表標題 質量分析による新石器時代の動物骨中のアミノ酸配列解析と動物種の同定
３．学会等名 日本生化学会第92回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Izuho, M. and J. R. Ferguson
２．発表標題 Temporal changes in obsidian procurement strategy during the Upper Paleolithic on Hokkaido
３．学会等名 SAA 84th Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Izuho, M., H. Hasegawa, G. Byambaa, and T. Batmunkh
２．発表標題 Chronological sequence of the Initial and Upper Paleolithic in Mongolia and its relationship to ecosystem changes during MIS3
３．学会等名 20th Congress of the International Union for Quaternary Research (INQUA)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Izuho, M. and N. Zwyns
２．発表標題 The site of Tolbor-17: new insight into the Upper Paleolithic of Mongolia
３．学会等名 Arkheologich Damdinsurengiin Tseveendorj（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Izuho, M., N. Zwyns, and S. Kuhn (Organizer)
２．発表標題 Unanswered questions on the Initial Upper Paleolithic and the first modern human dispersal across Eurasia
３．学会等名 20th Congress of the International Union for Quaternary Research (INQUA)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 出穂雅実
２．発表標題 モンゴル国ブルガン県トルボル17上部旧石器時代遺跡の発掘調査速報（2019年度）
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第8回研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 出穂雅実・長谷川精
２．発表標題 上部旧石器時代のモンゴルおよびザバイカルにおける環境変化と人類の 適応行動に関する予察
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第7回研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kadowaki, S.
２．発表標題 Spatial analysis of Neolithic chipped and ground stone artifacts at Haci Elamxanli Tepe in the southern Caucasus
３．学会等名 The 9th International Conference on the PPN Chipped and Ground Stone Industries of the Near East（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kadowaki, S., T. Tamura, H. Hasegawa, T. Kurozumi, H. Kitagawa, F. Watanabe Nara, R. Kida, M. Hirose, and D. O. Henry
２．発表標題 Re-investigation of two Initial Upper Paleolithic sites in the Jebel Qalkha, southern Levant: Lithic technology, chronology, marine shells, and paleoenvironment
３．学会等名 20th Congress of the International Union for Quaternary Research (INQUA)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 門脇誠二
２．発表標題 西アジアにおける小石刃技術の出現プロセス：多様性のモデル化と要因の検討に向けて
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第7回研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 門脇誠二
２．発表標題 レヴァント地方の中部旧石器後期～続旧石器中期における石器刃部獲得効率の変化
３．学会等名 日本旧石器学会第17回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 門脇誠二
２．発表標題 コメント：西アジアの新人定着期における資源利用行動
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第8回研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 門脇誠二・廣瀬允人・須賀永帰・東田和弘
２．発表標題 南ヨルダンのカルハ山旧石器遺跡群の近郊における新たな石材産地の発見
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第8回研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 門脇誠二・田村　亨・佐野勝宏・黒住耐二・廣瀬允人・木田梨沙子
２．発表標題 南レヴァント内陸部における上部旧石器時代初期の新たな記録：ヨルダン、ワディ・アガル遺跡の研究
３．学会等名 日本西アジア考古学会第24回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Konstantinov, M. V., M. Izuho, and F. Iizuka
２．発表標題 Criticism of fantastic ideas about the extraordinary antiquity of the first ceramics in the Transbaikal, Russia
３．学会等名 20th Congress of the International Union for Quaternary Research (INQUA)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Naito, Y.I., M. Belmaker, H. Bocherens, T. Nakazawa, M. Osawa, C. WiBing, and S. Kadowaki
２．発表標題 Gazelle hunting activities around Tor Hamar rock-shelter in Jordan viewed from carbon and oxygen isotopic compositions of tooth enamel and ZooMS
３．学会等名 International Symposium on Paleoanthropology in Commemoration of the 90th Anniversary of the Discovery of the First Skullcap of Peking Man（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Naito, Y. I., I. N. Meleg, M. Vlaicu, D. G. Drucker, C. WiBing, M. Hofreiter, A. Barlow, and H. Bocherens
２．発表標題 Amino acid nitrogen isotope analysis suggests herbivory for Romanian cave bears (Ursus ingressus)
３．学会等名 20th Congress of the International Union for Quaternary Research (INQUA)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 内藤裕一・M. Belmaker・H. Bocherence・門脇誠二
２．発表標題 ガゼルの歯の酸素同位体比からみたTor Hamarにおける狩猟活動（第3報）
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第7回研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 内藤裕一・門脇誠二
２．発表標題 ガゼルの歯の炭素・酸素同位体比からみたヨルダン・Tor Hamar遺跡における旧石器時代人の狩猟活動
３．学会等名 日本旧石器学会第17回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Nakazawa, T., M. Osawa, K. Matsuo, M. Inuzuka, Y. Ito, K. Kawahara, Y. Naito, S. Kadowaki, and Y. Nishiaki
２．発表標題 Identification of animal species by Mass Spectrometry of collagen extracted from Neolithic and Paleolithic bones and teeth
３．学会等名 67th ASMS Conference on Mass Spectrometry and Allied Topics (ASMS)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 中沢　隆
２．発表標題 Tor Hamar遺跡で出土した旧石器時代の動物の歯から抽出したコラーゲンの質量分析
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第7回研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 中沢　隆・大澤桃子・門脇誠二・西秋良宏
２．発表標題 新・旧石器時代の動物遺体に含まれるコラーゲンの質量分析のための新規化学処理法
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第8回研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Nakazawa, Y.
２．発表標題 Technological choices of the Last Glacial Maximum foragers in Hokkaido, Northern Japan: blade or flake?
３．学会等名 Paper presented at 2019 annual meeting of Paleoanthropology Society（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Nakazawa, Y. and K. Sano
２．発表標題 An assessment of the intrinsic water content toward understanding obsidian hydration: a case study of Paleolithic obsidian from the Shirataki in Hokkaido, Japan
３．学会等名 IAOS (International Association for Obsidian Studies) symposium at 84th annual meeting of the Society for American Archaeology（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Nakazawa, Y. and T. Tsutsumi
２．発表標題 Stone tool caches and early ceramic producers in the terminal Pleistocene of Japan
３．学会等名 20th Congress of the International Union for Quaternary Research (INQUA)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 中沢祐一
２．発表標題 共栄3遺跡の発掘成果：北海道東北部における現生人類居住に関する考古学的調査
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第8回研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 中沢祐一・岩瀬　彬
２．発表標題 北海道の初源的石刃技術と北アジアにおける石刃技術の出現
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第7回研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 中沢祐一・長沼正樹・青木要祐・赤井文人・髙倉　純・山田　哲・中村雄紀・早田　勉
２．発表標題 北海道常呂郡置戸町・共栄3遺跡の調査
３．学会等名 第33回 東北日本の旧石器文化を語る会秋田大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 中沢祐一・佐野恭平・直江康雄・坂本尚史
２．発表標題 母岩別資料を用いた黒曜石水和層法の知見：旧白滝3遺跡の例
３．学会等名 日本旧石器学会第17回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 小野林太郎
２．発表標題 東南アジア～オセアニア海域にかけての新人の拡散と文化変化
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第7回研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 小野林太郎
２．発表標題 東海地方と水中の文化遺産
３．学会等名 第3回とよはし歴史座
４．発表年 2019年

１．発表者名 小野林太郎
２．発表標題 インドネシアの貝塚遺跡と完新世期における人類の貝利用
３．学会等名 東南アジア考古学会大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 小野林太郎
２．発表標題 海からみたアジア・オセアニアの人類史
３．学会等名 明治大学博物館友の会・古代東北アジアと日本研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 小野林太郎
２．発表標題 海の人類史－東南アジア・オセアニア考古学の最前線
３．学会等名 第498回みんぱくゼミナール
４．発表年 2019年

１．発表者名 大澤桃子・松尾佳奈・津川加奈・門脇誠二・西秋良宏・中沢　隆
２．発表標題 南ヨルダンのTor Hamar遺跡で出土した旧石器時代の動物の歯から抽出したコラーゲンの質量分析
３．学会等名 日本生化学会第92回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 澤藤りかい・若林　賢・覚張隆史・勝村啓史・小川元之・内藤裕一・　木村亮介・石田　肇・西秋良宏・太田博樹
２．発表標題 アゼルバイジャンの古人骨ゲノム解析（予報）
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第7回研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 小野林太郎・R. Fuentes・A. Pawlik
２．発表標題 東南アジアの不定形剥片とその機能―使用痕分析から見えてきた人間行動と技術の複雑性
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第8回研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Suraprasit K., R. Shoocongdej, Y. I. Naito, J. -J. Jaeger, Y. Chaimanee, A. Wattanapituksakul, and H. Bocherens
２．発表標題 Ecological flexibility of the Pleistocene Sumatran serow and the possible cause of local extinction of the Himalayan goral in Thailand
３．学会等名 20th Congress of the International Union for Quaternary Research (INQUA)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Takahashi, K. and P. Yang
２．発表標題 Environmental evolution from life and culture of Lake Biwa
３．学会等名 Sino-Japan workshop on plateau lakes’s eutrophication and ecosystem restoration（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 高橋啓一
２．発表標題 東アジアの古代湖『琵琶湖』の固有種成立過程の解明
３．学会等名 第5回日韓合同セミナー
４．発表年 2019年

１．発表者名 高橋啓一
２．発表標題 瀬戸内海からの脊椎動物化石と日本の第四紀哺乳動物相
３．学会等名 国立歴史民俗博物館共同研究「直良コレクションを構成する更新統産動植物化石の分類学的検討と現代的評価」研究集会
４．発表年 2019年

１．発表者名 田村　亨・木田梨沙子・門脇誠二
２．発表標題 OSL年代によるヨルダンJebel Qalkhal旧石器遺跡の複合層序
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第7回研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 田村　亨・野口　淳・石井祐次・北川浩之
２．発表標題 パキスタンThar砂漠堆積物のOSL年代による石器年代の制約
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第8回研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 若野友一郎・門脇誠二・青木健一
２．発表標題 上部旧石器の起源地が新人の起源地とは異なる場合の生態文化的分布拡大モデル
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第7回研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 WiBing C., H. Rougier, I. Crevecoeur, C. Draily, M. Germonpre, A. Gomez-Olivencia, Y. I. Naito, C. Posth, P. Semal, and H. Bocherens
２．発表標題 When diet became diverse: Isotopic tracking of subsistence strategies among Gravettian hunters in Europe
３．学会等名 9th Annual ESHE (European Society for the study of Human Evolution)Meeting（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Zwyns, N., M. Izuho, B. Gunchinsuren, C.H.Paine, S.Rigaud, G.T.Gallo, Y.Nakazawa, F.Akai, T.Ueki, P.Zhang, J.C.Gillam, S.Talamo, B.Tsendendorj, D.Odsuren, G.Angaradulgun, D.Bazargur, T.Libois, and J.Galfi
２．発表標題 The open-air site of Tolbor-17 (North Mongolia): lithics, fire and ornaments during the MIS3
３．学会等名 International symposium on Paleoanthropology in Commemoration of the 90th Anniversary of the Discovery of the First Skull of Peking Man（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kadowaki, S.
２．発表標題 News from the desert: Stone Age behaviors and population changes from Neanderthals to modern humans in the Levant
３．学会等名 Stone Age Science: Insights into the Deep Human Past（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 門脇誠二
２．発表標題 レヴァント内陸の乾燥地帯における旧石器人の適応行動と文化変遷
３．学会等名 気候変動と古代西アジア―古気候から探る文化・文明の興亡
４．発表年 2020年

１．発表者名 Baba, R., A. Yoneyama, and K. Takahashi（連携研究者）
２．発表標題 Three-dimensional non-destructive imaging method of structural and elemental informationusing scattering X-ray
３．学会等名 Vth International Palaeontology Congress（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Belmaker, M., H. Bocherens, Y. Naito（連携研究者）, H.D. O’Brien, C. Wissing, T. Tamura, and S. Kadowaki
２．発表標題 Paleoenvironmental studies Tor Hamar, southern Jordan:Early modern human behavioral adaptability during MIS 3
３．学会等名 The 88th Annual Meeting of the American Association of Physical Anthropologists（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Bocherens, H., D. Drucker, Y. Naito（連携研究者）, and C. Wiβing
２．発表標題 Isotopic evidence for high mammoth consumption by late Neandertals and early modern humans in Europe and its possible ecological impact
３．学会等名 8th International Symposium on Biomolecular Archaeology（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Fuentes, R., R. Ono, H.O. Sofian, N. Aziz, Sriwigati, A.J. Carlos, C. Kerfant, N. Nakijima, and A. Pawlik
２．発表標題 Prehistoric tool technology and island adaptation during the Late Pleistocene to Holocene - results from North and Central Sulawesi
３．学会等名 The 21st Congress of Indo-Pacific Prehistory Association (IPPA)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Fuentes, R., R. Ono, H.O. Sofian, N. Aziz, Sriwigati, N. Nakijima, and A. Pawlik
２．発表標題 Behavioural and technological adaptation in Island Southeast Asia at the end of the Pleistocene - Cases from the Philippines, and North and Central Sulawesi
３．学会等名 The 21st Congress of Indo-Pacific Prehistory Association (IPPA)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Gallo, G, M. Izuho, G. Byambaa, C. Paine, and N. Zwyns
２．発表標題 Fire on the steppe: Behavioral insights from ephemeral combustion features
３．学会等名 The 18th UISPP world congress（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Gillam, J.C., N. Zwyns, M. Izuho, T. Bolorbat, and E. Rybin
２．発表標題 Shedding new light on Upper Paleolithic cultural landscapes of Northern Mongolia
３．学会等名 Society for American Archaeology 83rd Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Graf, K., T. Goebel, and M. Izuho
２．発表標題 Stemmed points: Are they a circum-pacific phenomenon?
３．学会等名 The Wilson Workshop（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 長谷川精・門脇誠二・田村　亨・奈良郁子
２．発表標題 南 ヨルダンの中部・上部・終末期旧石器時代遺跡堆積物からの古環境復元の試みと西アジアの古気候記録との比較
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第5回研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Iizuka, F., M. Izuho, and M. Aldenderfer
２．発表標題 Evaluating the advent of Neolithic in Southern Kyushu, Japan, through systematic ceramic, lithic, and paleoenvironmental studies
３．学会等名 Society for American Archaeology 83rd Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Inuzuka, M., Y. Ito, M. Osawa, K. Matsuo, M. Karino, S. Kadowaki, Y. Nishiaki, and T. Nakazawa（協力研究者）
２．発表標題 Amino acid sequencing of collagen extracted from archaeological samples for the identification of animal species by mass spectrometry
３．学会等名 The 91st Annual Meeting of the Japanese Biochemical Society（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Izuho, M.
２．発表標題 Refining the chronology of small flake-based assemblages during the Early Upper Paleolithic on Hokkaido (Japan)
３．学会等名 9th meeting of the Asian Paleolithic Association（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Izuho, M.
２．発表標題 Preservation conditions of the initial and early Upper Paleolithic sites in northern and eastern Mongolia
３．学会等名 The International Workshop, Cultural History of PaleoAsia（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Izuho, M., G. Byambaa, T. Batmunkh, F. Akai, F Iizuka, B. Dashzeveg, O. Davaakhuu, and Y. Nakazawa
２．発表標題 Excavation at the Upper Paleolithic Site of Tarvagatalin Am, Khudel Sum, Selenge Aimag (Mongolia): A preliminary results
３．学会等名 The 18th UISPP world congress（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 出穂雅実
２．発表標題 「ロシア・トルバガ上部旧石器時代 遺跡の居住年代と狩猟行動の再検討
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第5回研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 出穂雅実
２．発表標題 モンゴル国ブルガン県トルボル17上部旧石器時代遺跡の発掘調査速報（2018年度）
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第6回研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kadowaki, S.
２．発表標題 Issues on the appearance of anatomically modern humans in Mongolia: a perspective from the PaleoAsia project
３．学会等名 Commemorative Seminar for the 10th Anniversary of Field Research Center（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 門脇誠二
２．発表標題 ホモ･サピエンスの分布拡大と文化進化
３．学会等名 第34回国際生物学賞記念講演会（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kadowaki, S.
２．発表標題 Discussion toward further application of the ecocultural range-expansion model to the PaleoAsia cultural diversity
３．学会等名 The International Workshop, Cultural History of PaleoAsia（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 門脇誠二・D．ヘンリー・S．マサデ・廣瀬允人
２．発表標題 ホモ・サピエンスの拡散・定着期における文化動態―南ヨルダン、カルハ山の旧石器遺跡調査（2018 年）―
３．学会等名 第26回西アジア発掘調査報告会
４．発表年 2019年

１．発表者名 門脇誠二・池谷和信
２．発表標題 中部旧石器時代から上部旧石器時代への居住移動行動の変遷：南ヨルダ ン、カルハ山域の資源利用に注目して
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第6回研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 門脇誠二・若野友一郎
２．発表標題 上部旧石器のはじまりと石器刃部獲得効率の関係
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第5回研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 近藤洋一・高橋啓一（連携研究者）・馬場理香・小寺春人・北川博道・ 関めぐみ
２．発表標題 長野県佐久穂町から産出した畑 八標本（“ Palaeoloxodon naumanni ”）のX線CT画像 による再検討
３．学会等名 日本地質学会第125年学術大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 内藤裕一（連携研究者）
２．発表標題 ケラチン中アミノ酸のGCMS分析法の開発と応用研究の可能性について
３．学会等名 第3回日本古病理学研究会大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Naito, Y.I.（連携研究者）, M. Belmaker, H. Bocherens, C. Wiβing, and S. Kadowaki
２．発表標題 Gazelle hunting activities around Tor Hamar rock-shelter in Jordan viewed from carbon and oxygen isotopic compositions of tooth enamel
３．学会等名 Isoecol2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Naito, Y.I.（連携研究者）, M. Belmaker, H. Bocherens, C. Wiβing, and S. Kadowaki
２．発表標題 Gazelle hunting activities around Tor Hamar rock-shelter in Jordan viewed from carbon and oxygen isotopic compositions of tooth enamel
３．学会等名 The Internati onal Workshop , Cultural History of PaleoAsia（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Naito, Y.I.（連携研究者）, H. Bocherens, Y. Chikaraishi, D.G. Drucker, M. Germonpre, K.A. Hobson, and N. Ohkouchi
２．発表標題 Paleodiets of late Quaternary humans and mammals inferred from nitrogen isotopic composition of individual amino acids in bone collagen
３．学会等名 Isoecol2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Naito, Y.I.（連携研究者）, M. Yamane, and H. Kitagawa
２．発表標題 A prescreening protocol for radiocarbon dating of ancient bone collagen using ATR-FTIR
３．学会等名 The 23rd International Radiocarbon Conference（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 内藤裕一（連携研究者）・M. Belmaker・H. Bocherens・門脇誠二
２．発表標題 ガゼルの歯の酸素同位体比からみたTor Hamarにおける狩猟活動（続報）
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第5回研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 中沢　隆（研究協力者）
２．発表標題 動物骨および皮革など考古学資料 から抽出したコラーゲンの質量分析による動物種の同定
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第5回研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 中沢　隆（研究協力者）・門脇誠二・西秋良宏
２．発表標題 アゼルバイジャンから出土した新石器時代のヤギおよびヒツジの骨に含まれるコラーゲンの質量分析
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究 2016-2020：パレオアジア文化史学第6回研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Nakazawa, T.（研究協力者）, M. Karino, S. Arai, K. Ohnishi, K. Kawahara, Y. Taniguchi, A. Tsuneki, S. Kadowaki, and Y. Nishiaki
２．発表標題 Mass spectrometry of collagen preserved in Neolithic animal bones for the identification of species
３．学会等名 66th ASMS Conference on Mass Spectrometry and Allied Topics（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Nakazawa, T.（研究協力者）, M. Osawa, K. Matsuo, M. Inuzuka, Y. Ito, S. Kadowaki, and Y. Nishiaki
２．発表標題 Identification of animal species by mass spectrometry of collagen preserved in Neolithic and Paleolithic bone specimens
３．学会等名 The International Workshop, Cultural History of PaleoAsia（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 中沢祐一
２．発表標題 北海道東北部の置戸黒曜石産地周 辺における人間活動
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化 史学第5回研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 中沢祐一
２．発表標題 趣旨説明
３．学会等名 日本旧石器学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 中沢祐一
２．発表標題 北海道における神子柴系石器群の存在性
３．学会等名 シンポジウム神子柴系石器群その存在と影響（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 中沢祐一
２．発表標題 パッチ利用モデルと石器消費の接点を探る
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第6回研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Nakazawa, Y. , A. Iwase, N. Oda, F. Akai, K. Hiromatsu, M. Izuho, and H. Ohtorii
２．発表標題 Some thoughts on the terminal Pleistocene stone tool cache: A case study from the Tomamu-daichi site, eastern Hokkaido, Japan
３．学会等名 The International Workshop, Cultural History of PaleoAsia（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 奈良郁子・門脇誠二
２．発表標題 南ヨルダン旧石器時代遺跡堆積物を用いた鉱物学的アプローチからの古環境復元
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第 5回研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 奈良郁子・長谷川精・田村　亨・門脇誠二
２．発表標題 南ヨルダン遺跡堆積物を用いた旧石器時代古気候復元
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第6回研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 野林厚志・門脇誠二
２．発表標題 中部旧石器時代から上部旧石器時代にかけての狩猟具の小型化の行動論的考察：民族誌からの予察
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第6回研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Ono, R.
２．発表標題 Technological and social interaction between hunter-gatherers and new migrants in prehistoric (Neolithic) Island Southeast Asia and Oceania
３．学会等名 The Twelfth International Conference on Hunting and Gathering Societies (CHAGS 12)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Ono, R., H.O. Sofian, A.A. Oktavianus, Sriwigati, N. Aziz, C. Katagiri, and M. Takenaka
２．発表標題 Late Neolithic to Early Metal Aged dentatestamped potteries, burial ornaments, and human migration in Wallacea- Evidences from Sulawesi and Northern Maluku Islands, Indonesia
３．学会等名 The 21st Congress of Indo-Pacific Prehistory Association (IPPA)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Ono, R., H.O. Sofian, Sriwigati, N. Aziz, R. Fuentes, and A. Pawlik
２．発表標題 Resource use, island adaptation, and dispersal of early Anatomically Modern Human in Wallacea
３．学会等名 The 21st Congress of Indo-Pacific Prehistory Association (IPPA)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Ono, R., H.O. Sofian, N. Aziz, R. Fuentes, and A. Pawlik
２．発表標題 Resource use and tool technology during the Late Pleistocene to Holocene in Wallacea-Cases from North and Central Sulawesi, Indonesia
３．学会等名 The International Workshop, Cultural History of PaleoAsia（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 小野林太郎
２．発表標題 後期更新世～完新世期のウォーレシアにおける石器・骨器利用
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第5回研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 小野林太郎
２．発表標題 熱帯との比較
３．学会等名 A01/A02/B01合同研究会「温帯更新世の狩猟採集民の実像を求めて」
４．発表年 2018年

１．発表者名 小野林太郎・Alfred Pawlik・Riczar Fuentes
２．発表標題 更新世後期～完新世期のウォーレシア海域における旧石器人の島嶼適応と石器・骨器の変化-スラウェシ島・トポガロ洞窟群遺跡の事例から
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第6回研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Pawlik, A., K.A. Lim, R. Fuentes, R. Ono, and P.J. Piper
２．発表標題 Connecting humans and the environment in changing landscapes and seascapes of the Pleistocene - Holocene transition
３．学会等名 The 21st Congress of Indo-Pacific Prehistory Association (IPPA)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Sofian, H. O., R. Ono, N. Aziz, Sriwigati, and N. Alamsyah
２．発表標題 XRF analysis of metal artifacts from an Early Metal Age site in Central Sulawesi, Indonesia
３．学会等名 The 21st Congress of Indo-Pacific Prehistory Association (IPPA)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 高橋啓一（連携研究者）・楊　平
２．発表標題 中国東北～北部におけるマンモス－ケサイ動物群と北方系細石刃石器群
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第6回研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Tamura, T. and S. Kadowaki
２．発表標題 Opticallystimulated luminescence (OSL) dating of Paleolithic sediments in Jebel Qalkha, southern Jordan
３．学会等名 The International Workshop, Cultural History of PaleoAsia（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 田村　亨・門脇誠二
２．発表標題 南ヨルダンJebel Qalkha 旧石器時代遺跡堆積物の光ルミネッセンス（OSL）特性
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第5回研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 田村　亨・西秋良宏・門脇誠二・国武貞克
２．発表標題 中央・西アジア旧石器時代遺跡のOSL特性の多様性
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第6回研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Terry, K., I. Buvit, and M. Izuho
２．発表標題 A Last Glacial Maximum Paleo-Sakhalin-Hokkaido-Kuril Peninsula Refugium and its implications for the peopling of the Americas
３．学会等名 The 18th UISPP world congress（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Wakano, J.Y., W. Gilpin, S. Kadowaki, M.W. Feldman, and K. Aoki
２．発表標題 Ecocultural rangeexpansion models of modern humans with ecological competition with Neanderthals
３．学会等名 The International Workshop, Cultural History of PaleoAsia
４．発表年 2018年

１．発表者名 渡辺順也・小泉明裕・中川良平・高橋啓一（連携研究者）・田中　猛・ 松岡廣繁
２．発表標題 更新統上総層群・下総層群から産出した海鳥化石群
３．学会等名 日本古生物学会第168回例会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Wiβing, C., H. Rougier, I. Crevecoeur, D. Drucker, M. Germonpre, Y.I. Naito（連携研究者）, C. Posth, P. Semal, and H. Bocherens
２．発表標題 Isotopic insights into paleoecology (diet, mobility) of late Neandertals in North-West Europe
３．学会等名 The Hugo Obermaier Conference（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yamane, M., Y.I. Naito（連携研究者）, and H. Kitagawa
２．発表標題 A promised method of diatom frustule separation from sediments for radiocarbon dating
３．学会等名 The 23rd International Radiocarbon Conference（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 長谷川精・門脇誠二
２．発表標題 南ヨルダンの中部・上部・終末期旧石器時代遺跡堆積物からの古環境復元の試み（予察）
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第4回研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 出穂雅実
２．発表標題 モンゴルにおける最初期現生人類の人類学的・考古学的研究―2009-2016年度フィールドワークから―
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第3回研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 出穂雅実
２．発表標題 北東アジアのLGM先史狩猟採集民の技術的・行動的研究（1990年代後半～2017年）
３．学会等名 LGM古植生科研会議
４．発表年 2017年

１．発表者名 出穂雅実
２．発表標題 モンゴル国セレンゲ県フデル郡タルバガタインアム上部旧石器時代遺跡の試掘調査速報（2）
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第4回研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 門脇誠二
２．発表標題 モビウス・ライン西側における新人文化の発生と多様性―小石刃を用いる行動と社会の考察―
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第3回研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 門脇誠二
２．発表標題 射的具か石材節約か？：レヴァント上部旧石器時代における小石刃の発生と行動的説明
３．学会等名 日本西アジア考古学会第22回大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Kadowaki, S. and Y. Nishiaki
２．発表標題 Dating cultural dynamics during the dispersals of anatomically modern humans and agriculture in western Eurasia
３．学会等名 14th International Conference on Accelerator Mass Spectrometry（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Kadowaki, S.
２．発表標題 Emergence of bladelets in the Levant and its behavioral meanings
３．学会等名 International Workshop on Cultural History of PaleoAsia, “Across the Movius Line: Cultural Geography of South and Southeast Asia in the Late Pleistocene”
４．発表年 2017年

１．発表者名 Kadowaki, S.
２．発表標題 Space-time distributions and behavioral changes of Neanderthals and modern humans in west Asia: archaeological records on the Middle-to-Upper Paleolithic transition
３．学会等名 “Cultural History of PaleoAsia” International workshop (Organized by B02), “Theoretical Models of Cultural Evolution during Modern Human Dispersals”
４．発表年 2017年

１．発表者名 Karino, M., K. Kawahara, S. Kadowaki, Y. Taniguchi, A. Tsuneki, M. Moini, and T. Nakazawa（研究協力者）
２．発表標題 Characterization of degradation profile of collagen in archaeological specimens by mass spectrometry
３．学会等名 The 64th ASMS Conference on Mass Spectrometry and Allied Topics
４．発表年 2017年

１．発表者名 Karino, M., Y. Ito, M. Inuduka, S. Kadowaki, Y. Nishiaki, and T. Nakazawa（研究協力者）
２．発表標題 Mass spectrometry of collagen in 8,000-year-old animal bones to characterize deterioration
３．学会等名 ConBio2017 (Consortium of Biological Sciences 2017) 90th Annual Meeting of the Japanese Biochemical Society
４．発表年 2017年

１．発表者名 片桐千亜紀・竹中正巳・小野林太郎・O．アグス
２．発表標題 インドネシア・アルマナラ岩陰遺跡出土人骨の歯に刻まれた生活痕
３．学会等名 第71回日本人類学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Kitagawa, H. and K. Takahashi（連携研究者）
２．発表標題 Evolution and immigration of Lower-Middle Pleistocene elephants of Japan and Taiwan
３．学会等名 VII International Conference of Mammoths and Their Relatives（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Naito, Y. I.（連携研究者）
２．発表標題 Stable isotope analysis of pollen grains for terrestrial paleoclimate reconstruction revisited
３．学会等名 Japan Geoscience Union and the American Geophysical Union Joint Meeting 2017
４．発表年 2017年

１．発表者名 内藤裕一（連携研究者）・H. ボチェレンス・門脇誠二
２．発表標題 ガゼルの歯の酸素同位体比からみたTor Hamarにおける狩猟活動：定量化の試みと制約
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第4回研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 内藤裕一（連携研究者）
２．発表標題 古代人の暮し
３．学会等名 名古屋大学博物館公開シンポジウム“最新研究でよみがえる古生物・古人類のくらし”
４．発表年 2017年

１．発表者名 Nakazawa, T.（研究協力者）
２．発表標題 Characterization of degradation profile of collagen in archaeological bone specimens
３．学会等名 The 64th ASMS Conference on Mass Spectrometry and Allied Topics
４．発表年 2017年

１．発表者名 中沢　隆（研究協力者）・苅野茉央
２．発表標題 2,000年から40,000年前の動物骨に含まれているコラーゲンのタンパク質考古学的研究
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第3回研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 中沢　隆（研究協力者）
２．発表標題 経年劣化した動物骨に残存するコラーゲンの質量分析による動物種の特定
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第4回研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 中沢祐一
２．発表標題 資源利用の集約化とストーンボイリング―パレオアジアの礫群分析に向けたヨーロッパ後期旧石器からの展望―
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第3回研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 中沢祐一
２．発表標題 日本列島における前期旧石器研究の展望
３．学会等名 第31回東北日本の旧石器文化を語る会岩手大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Nakazawa, Y., C. Vega Maeso, E. Carmona Ballestero, J. Rissetto, A. Berzosa Ondaz, Y. Naoe, K. Dohi, M. Araya, and M. del Arco
２．発表標題 Results of a preliminary study on the obsidian outcrops and Pre-Hispanic sites in Tenerife, Canary Islands
３．学会等名 Japan Geoscience Union and the American Geophysical Union Joint Meeting 2017
４．発表年 2017年

１．発表者名 中沢祐一・長沼正樹・廣松滉一・赤井文人・尾田識好・吉留頌平・中村雄紀・内田和典・種石　悠・冨塚　龍・高倉　純・出穂雅実
２．発表標題 北海道東北部・北見盆地における現生人類遺跡の考古学的調査：共栄3遺跡（置戸町）の試掘調査の成果
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第4回研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 小野林太郎・A．ポーリク・R．フエンテス・スリャットマン
２．発表標題 モビウスラインより東側における新人文化の変異について―東南アジア～オセアニア海域の事例から―
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第3回研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Ono, R.
２．発表標題 Environments, resource use and maritime adaptation in Wallacea in the Late Pleistocene: comparison of modern human migration routes into Oceania
３．学会等名 International Workshop on Cultural History of PaleoAsia, “Across the Movius Line: Cultural Geography of South and Southeast Asia in the Late Pleistocene”
４．発表年 2017年

１．発表者名 小野林太郎
２．発表標題 海民論からみた先史オーストロネシア語族の拡散：ラピタによる移住と生業戦略
３．学会等名 第40回日本オセアニア学会大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 小野林太郎・片桐千亜紀・竹中正巳・O．アグス
２．発表標題 葬墓制からみた東南アジア島嶼部の初期金属器時代と海域ネットワーク
３．学会等名 第71回日本人類学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 小野林太郎・A．ポーリク・R．フエンテス
２．発表標題 インドネシア・スラウェシ島中部に進出した新人による石器利用
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第4回研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 高橋啓一（連携研究者）・馬場理香・米山明男
２．発表標題 X線CT装置によるゾウ臼歯化石の観察
３．学会等名 放射光イメージング研究会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Takahashi, K.（連携研究者）, R. Baba, A. Yoneyama, and H. Kitagawa
２．発表標題 X-ray CT observation of the Middle Pleistocene Japanese mammoth (Mammuthus protomammonteus) molars
３．学会等名 VII International Conference of Mammoths and Their Relatives（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 高橋啓一（連携研究者）
２．発表標題 東アジアにおけるMIS3以降の哺乳動物相の変遷（その1．北方の動物相）
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第4回研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 若野友一郎・門脇誠二・青木健一
２．発表標題 新人の分布拡大における2種類の進行波モデルと新人の文化動態
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第4回研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 山田仁史・中沢祐一
２．発表標題 ストーンボイリングおよび関連した文化革新／退行についての民族誌データ
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第4回研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 半田直人・出穂雅実・高橋啓一・B. Tsogtbaatar・B. Gunchinsuren・D. Odsuren
２．発表標題 モンゴル東部オンドルハーンより産出した更新世サイ科化石（予報）
３．学会等名 日本古生物学会第166回例会
４．発表年 2017年

１．発表者名 出穂雅実
２．発表標題 モンゴル国セレンゲ県フデル郡タルバガタイアム遺跡の試掘調査速報
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第1回研究大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 Izuho, M.
２．発表標題 Human Technological and Behavioral Adaptation to Landscape Changes around the Last Glacial Maximum in Japan: A Focus on Hokkaido
３．学会等名 Public talk at the Department of Anthropology（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Izuho, M.
２．発表標題 Human Technological and BehavioralAdaptation to Landscape Changes around the Last Glacial Maximum in Japan: A Focus on Hokkaido
３．学会等名 Public talk at the Department of Anthropology（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 出穂雅実
２．発表標題 モンゴルおよびザバイカルにおける上部旧石器時代初期遺跡の占拠年代はどのくらい確かなのか？
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第2回研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Izuho, M.
２．発表標題 Collect this blocky one, not that rounded one: Upper Paleolithic obsidian use in Paleo-SHK Peninsula
３．学会等名 Public talk at the Institute of Archaeology and Ethnography（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 門脇誠二
２．発表標題 ネアンデルタールと私たちホモ・サピエンス―交替劇の真実
３．学会等名 平成28年度 大河講座　ひとの大学（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 門脇誠二
２．発表標題 ホモ・サピエンスの出現・拡散とビーズに関する考古記録
３．学会等名 平成28年度国立民族学博物館共同研究会：世界のビーズをめぐる人類学的研究（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 門脇誠二
２．発表標題 ホモ・サピエンスのアジア定着期における行動様式の解明：目的と方法
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第1回研究大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 門脇誠二
２．発表標題 西アジアの遺跡調査からさぐる人類史―人類の進化と農業の起源
３．学会等名 日本西アジア考古学会主催　第1回西アジア考古学トップランナーズセミナー（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Kadowaki, S.
２．発表標題 Biological and cultural transitions from the Middle to Upper Palaeolithic in west Asia: a perspective from lithic technology and settlement behavior
３．学会等名 Biological and cultural transitions in the Middle and Upper Palaeolithic in west Asia: Perspectives from PaleoAsia（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 門脇誠二
２．発表標題 南ヨルダン、カルハ山における上部旧石器時代遺跡の調査：目的と2016年度の成果
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第2回研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Kadowaki, S.
２．発表標題 Space-time distributions and behavioral changes of Neanderthals and modern humans in west Asia: archaeological records on the Middle-to-Upper Palaeolithic transition
３．学会等名 Human Evolution in Eurasia Elucidated through Genetics, Archeology, and Linguistics（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 門脇誠二
２．発表標題 資源開発と技術革新の昔ばなし：人類史から学ぶ生存戦略
３．学会等名 名古屋大学オープンレクチャー2017（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 門脇誠二・ドナルド　ヘンリー・サタ　マサデ・廣瀬允人
２．発表標題 ホモ・サピエンスの拡散・定着期における文化動態―南ヨルダン、カルハ山の旧石器遺跡調査（2016年）
３．学会等名 第24回西アジア発掘調査報告会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Naito, Y.I.
２．発表標題 Nitrogen isotopic composition of individual amino acids in bones: a tool for illuminating past human and animal behaviors
３．学会等名 International workshop of Organic Geochemistry "Biomarkers and Molecular Isotopes"（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Naito, Y.I., Y. Chikaraishi, Y. Takano, and N. Ohkouch
２．発表標題 Decoding food habits in the past: emerging perspectives from compound-specific isotope analysis of archaeological human remains
３．学会等名 World Archaeology Congress 8 (WAC-8)（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 内藤裕一
２．発表標題 各種同位体分析を用いた後期更新世の古環境復元と人類の生業の研究：近年の動向と新展開
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第1回研究大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 内藤裕一・高野淑識・山根雅子・横山祐典・永田俊・大河内直彦
２．発表標題 爪ケラチンのアミノ酸14C分析による現代人の食習慣・移住の解析
３．学会等名 第70回日本人類学会大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 中沢祐一
２．発表標題 北アメリカの先史文化の誕生と北海道の旧石器文化
３．学会等名 北方民族博物館平成28年度講座（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 中沢祐一・出穂雅実
２．発表標題 考古資料に基づく後期旧石器時代の社会・人間行動復元の現状と課題
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第1回研究大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 中沢祐一・田村昌文・長沼正樹・赤井文人・種石　悠
２．発表標題 北海道東北部の北見盆地における現生人類遺跡の考古学的踏査
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第2回研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 中沢祐一・直江康雄・坂本尚史
２．発表標題 黒曜石水和層法による北海道最終氷期の石器群の時間的関係：旧白滝３遺跡の検討例
３．学会等名 北海道旧石器文化研究会
４．発表年 2017年

１．発表者名 難波元生・内藤裕一・塘　忠顕
２．発表標題 福島県裏磐梯地域に生息する外来底生動物（ウチダザリガニとフロリダマミズヨコエビ）
３．学会等名 2016年度日本陸水学会第81回大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 Ono, R., A. Oktaviana, F. Aziz D. Prastiningtyas, N. Iriyanto M. Ririmasei, and I. B. Zesse
２．発表標題 Development of pottery making tradition and maritime networks during the Early Metal Ages in Northern Maluku Islands
３．学会等名 The International Austronesian Symposium（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Ono, R., A. Oktaviana, F. Aziz D. Prastiningtyas, N. Iriyanto M. Ririmasei, and I. B. Zesse
２．発表標題 Development of Maritime Networks during Neolithic to Early Metal Ages in Northern Maluku
３．学会等名 The International Austronesian Symposium（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Ono, R. F. Aziz, A. Oktavianas, Y. Hisa, and C. Katagiri
２．発表標題 Development of regional maritime networks during the Early Metal Ages in Northern Wallacea
３．学会等名 The 8th World Archaeology Congress（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 小野林太郎
２．発表標題 インドネシア、スラウェシ中部のホモ・サピエンスの拡散と後期更新世～完新世における生業の変化
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第1回研究大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 小野林太郎
２．発表標題 ホモ・サピエンスによる海域世界への拡散と生業戦略：インドネシア、スラウェシ島中部の事例から
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第2回研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 高橋啓一
２．発表標題 ナウマンゾウとマンモスゾウは北海道で共存したのか
３．学会等名 日本哺乳類学会2016年度大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 高橋啓一・出穂雅実
２．発表標題 北海道における動植物相の変遷と後期旧石器時代石器群の関係性
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第1回研究大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 田村　亨・門脇誠二
２．発表標題 ヨルダンTor Hamarサイトの0SL年 代測定：予察報告
３．学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第2回研究大会
４．発表年 2017年

〔図書〕　計38件

１．著者名 Kadowaki, S., T. Kurozumi, and D. O. Henry (edited by Y. Nishiaki and O. Joris)	４．発行年 2019年
２．出版社 Springer Nature	５．総ページ数 228
３．書名 論文名「Marine shells from Tor Fawaz, southern Jordan, and their implications for behavioral changes from the Middle to Upper Paleolithic in the Levant」　書名『Learning Among Neanderthals and Palaeolithic Modern Humans』	

１．著者名 Ono, R., S. Hawkins, and S. Bedford (edited by Bedford, S. and M. Spriggs)	４．発行年 2019年
２．出版社 ANU Press	５．総ページ数 508
３．書名 論文名「Lapita maritime adaptations and the development of fishing technology: A view from Vanuatu」　書名『Debating Lapita: Chronology, Society and Subsistence』	

１．著者名 小野林太郎　（石森大知・丹羽典夫編）	４．発行年 2019年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 368
３．書名 論文名「日本への人類移住と南方起源説－その魅力と可能性」　書名『太平洋諸島の歴史を知るための60章－日本とのかかわり』	

１．著者名 小野林太郎　（石森大知・丹羽典夫編）	４．発行年 2019年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 368
３．書名 論文名「人類史から見た縄文時代と南太平洋の人々－海を越えた私たちの祖先とその関係性」　書名『太平洋諸島の歴史を知るための60章－日本とのかかわり』	

１．著者名 門脇誠二　（西秋良宏編）	４．発行年 2020年
２．出版社 朝日新聞出版	５．総ページ数 268
３．書名 論文名「現生人類の出アフリカと西アジアでの出来事」　書名『アフリカからアジアへ―現生人類はどう拡散したか―』	

１．著者名 門脇誠二　（池谷和信編）	４．発行年 2020年
２．出版社 昭和堂	５．総ページ数 336
３．書名 論文名「人類最古のビーズ利用とホモ・サピエンス―世界各地の発見から」　書名『ビーズでたどるホモ・サピエンス史』	

１．著者名 門脇誠二・廣瀬允人・須賀永帰・S．マサデ・D．ヘンリー　（日本西アジア考古学会編）	４．発行年 2020年
２．出版社 日本西アジア考古学会	５．総ページ数 140
３．書名 論文名「ホモ・サピエンスの拡散・定着期における文化動態―南ヨルダン、カルハ山の旧石器遺跡調査（2019年）―」　書名『第27回西アジア発掘調査報告会報告集』	

1．著者名 天野哲也・中沢祐一　（同志社大学考古学シリーズ刊行会編）	4．発行年 2018年
2．出版社 同志社大学考古学シリーズ刊行会	5．総ページ数 858
3．書名 論文名「オホーツク文化前期の集団関係―「幕別A地点」の土器から―」　図書名『実証の考古学　松藤和人先生退職記念論文集　同志社大学 考古学シリーズ12』	

1．著者名 門脇誠二　（岡山市立オリエント美術館・古代オリエント博物館編）	4．発行年 2018年
2．出版社 岡山市立オリエント美術館・古代オリエント博物館	5．総ページ数 230
3．書名 論文名「ユーラシアに拡散した原人とその文化」　図書名『シルクロード新世紀展―ヒトが動き、モノが動く―』	

1．著者名 Kadowaki, S. and D.O. Henry (edited by S. Nakamura, T. Adachi, and M. Abe)	4．発行年 2019年
2．出版社 六一書房	5．総ページ数 362
3．書名 「Renewed Investigation of the Middle and Upper Paleolithic Sites in the Jebel Qalkha Area, Southern Jordan」『Decades in Deserts: Essays on Near Eastern Archaeology in honour of Sumio Fujii』	

1．著者名 門脇誠二・D．ヘンリー・S．マサデ・廣瀬允人　（日本西アジア考古学会編）	4．発行年 2019年
2．出版社 日本西アジア考古学会	5．総ページ数 118
3．書名 論文名「ホモ・サピエンスの拡散・定着期における文化動態―南ヨルダン、カルハ山の旧石器遺跡調査（2018年）―」　図書名『第26回西アジア発掘調査報告会報告集』	

1．著者名 内藤裕一（連携研究者）　（青野友哉・永谷幸人編）	4．発行年 2018年
2．出版社 伊達市噴火湾文化研究所	5．総ページ数 184
3．書名 論文名「絵鞆貝塚出土人骨・動物骨のアミノ酸窒素同位体比測定結果」　図書名『北海道噴火湾沿岸の縄文文化の基礎的研究』	

1．著者名 中沢祐一　（堤　隆編）	4．発行年 2018年
2．出版社 八ヶ岳旧石器研究グループ	5．総ページ数 50
3．書名 論文名「北海道における神子柴系石器群の存在性」　図書名『シンポジウム神子柴系石器群その存在と影響』	

1．著者名 門脇誠二（安斎正人編）	4．発行年 2017年
2．出版社 同成社	5．総ページ数 524
3．書名 論文名「ホモ・サピエンスの拡散と文化動態―西アジアの上部旧石器前半期の研究」、図書名『理論考古学の実践　II実践篇』	

1．著者名 木村　淳・小野林太郎・丸山真史編	4．発行年 2018年
2．出版社 東海大学出版部	5．総ページ数 170
3．書名 海洋考古学入門	

1．著者名 Nishiaki, Y., A. Noguchi, and R. Ono (eds.)	4．発行年 2017年
2．出版社 The University Museum, The University of Tokyo	5．総ページ数 12
3．書名 International Workshop on Cultural History of PaleoAsia, “Across the Movius Line: Cultural Geography of South and Southeast Asia in the Late Pleistocene”	

1．著者名 小野林太郎	4．発行年 2018年
2．出版社 雄山閣	5．総ページ数 240
3．書名 海の人類史―東南アジア・オセアニア海域の考古学　増補改訂版	

1．著者名 小野林太郎・長津一史・印東道子編	4．発行年 2018年
2．出版社 昭和堂	5．総ページ数 400
3．書名 海民の移動誌―西太平洋のネットワーク社会	

1．著者名 Kadowaki, S. (edited by Y. Nishiaki and T. Akazawa)	4．発行年 2018年
2．出版社 Springer	5．総ページ数 218
3．書名 Ahmarian or Levantine Aurignacian? Wadi Kharar 16R and new insights into the Upper Palaeolithic lithic technology in the northeastern Levant. In: The Middle and Upper Paleolithic Archeology of the Levant and Beyond	

１．著者名 門脇誠二・D．ヘンリー・S．マサデ・廣瀬允人（日本西アジア考古学会編）	４．発行年 2018年
２．出版社 日本西アジア考古学会	５．総ページ数 127
３．書名 論文名「ホモ・サピエンスの拡散・定着期における文化動態―南ヨルダン、カルハ山の旧石器遺跡調査（2017年）―」図書名『第25回西アジア発掘調査報告会報告集』	

１．著者名 小野林太郎（小野林太郎・長津一史・印東道子編）	４．発行年 2018年
２．出版社 昭和堂	５．総ページ数 400
３．書名 論文名「海民の移動誌とその視座」図書名『海民の移動誌－西太平洋のネットワーク社会』	

１．著者名 小野林太郎（小野林太郎・長津一史・印東道子編）	４．発行年 2018年
２．出版社 昭和堂	５．総ページ数 400
３．書名 論文名「先史オセアニアの海域ネットワーク－オセアニアに進出したラピタ人と海民論」図書名『海民の移動誌－西太平洋のネットワーク社会』	

１．著者名 小野林太郎（木村　淳・小野林太郎・丸山真史編）	４．発行年 2018年
２．出版社 東海大学出版部	５．総ページ数 170
３．書名 論文名「海からみた人類の進化と歴史」図書名『海洋考古学入門』	

１．著者名 小野林太郎（木村　淳・小野林太郎・丸山真史編）	４．発行年 2018年
２．出版社 東海大学出版部	５．総ページ数 170
３．書名 論文名「島嶼と沿岸考古学」図書名『海洋考古学入門』	

１．著者名 小野林太郎（木村　淳・小野林太郎・丸山真史編）	４．発行年 2018年
２．出版社 東海大学出版部	５．総ページ数 170
３．書名 論文名「海域アジアにおける海民の過去と現在」図書名『海洋考古学入門』	

１．著者名 高橋啓一（連携研究者）・琵琶湖博物館はしかけ古琵琶湖発掘調査隊（多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト事務局・高橋啓一編）	４．発行年 2017年
２．出版社 多賀町教育委員会	５．総ページ数 105
３．書名 論文名「滋賀県犬上郡多賀町四手より発見されたシカ化石」図書名『多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト報告書』	

１．著者名 高橋啓一（連携研究者）（多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト事務局・高橋啓一編）	４．発行年 2017年
２．出版社 多賀町教育委員会	５．総ページ数 105
３．書名 論文名「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト（2012-2016）成果のまとめ」図書名『多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト報告書』	

１．著者名 田中和彦・小野林太郎（小野林太郎・長津一史・印東道子編）	４．発行年 2018年
２．出版社 昭和堂	５．総ページ数 400
３．書名 論文名「海域東南アジアの先史時代とネットワークの成立過程－「海民」の基層文化論」図書名『海民の移動誌－西太平洋のネットワーク社会』	

１．著者名 門脇誠二・出穂雅実・小野林太郎・中沢祐一・高橋啓一・内藤裕一（編集：門脇誠二）	４．発行年 2017年
２．出版社 文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究（研究領域提案型）2016-2020年度「パレオアジア文化史学―アジア新人文化形成プロセスの総合的研究」A02班	５．総ページ数 67
３．書名 ホモ・サピエンスのアジア定着期における行動様式の解明１　―「パレオアジア文化史学」A02班2016年度研究報告	

１．著者名 門脇誠二・出穂雅実・小野林太郎・中沢祐一・高橋啓一・内藤裕一ほか（編集：門脇誠二）	４．発行年 2016年
２．出版社 文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究（研究領域提案型）2016-2020年度「パレオアジア文化史学―アジア新人文化形成プロセスの総合的研究」総括班	５．総ページ数 78
３．書名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第2回研究大会予稿集	

１．著者名 小野林太郎	４．発行年 2017年
２．出版社 雄山閣	５．総ページ数 240
３．書名 海の人類史 東南アジア・オセアニア海域の考古学	

1．著者名 高橋啓一	4．発行年 2016年
2．出版社 サンライズ出版	5．総ページ数 109
3．書名 ゾウがいた，ワニもいた琵琶湖のほとり	

1．著者名 Kadowaki, S., F. Guliyev and Y. Nishiakiほか（編集：O. Kaelin, H.-P. Mathys）	4．発行年 2016年
2．出版社 Harrassowitz Verlag	5．総ページ数 789
3．書名 Proceedings of the 9th International Congress of the Archaeology of the Ancient Near East, Volume 3	

1．著者名 門脇誠二ほか（編集：池谷和信）	4．発行年 2017年
2．出版社 国立民族学博物館	5．総ページ数 136
3．書名 ビーズ―つなぐ　かざる　みせる	

1．著者名 中沢祐一ほか（編集：佐藤宏之・山田　哲・出穂雅実）	4．発行年 2016年
2．出版社 六一書房	5．総ページ数 276
3．書名 晩氷期の人類社会―北方先史狩猟採集民の適応行動と居住形態―	

１．著者名 中沢祐一ほか（編集：種石　悠）	４．発行年 2016年
２．出版社 北海道道立北方民族博物館	５．総ページ数 70
３．書名 北からの文化の波　北海道の旧石器からオホーツク文化まで	

１．著者名 小野林太郎ほか（編集：池谷和信）	４．発行年 2017年
２．出版社 東京大学出版会	５．総ページ数 320
３．書名 狩猟採集民からみた地球環境史―自然・隣人・文明との共生	

１．著者名 Ono, R.ほか（編集：M. Marghany）	４．発行年 2016年
２．出版社 InTech Publisher	５．総ページ数 436
３．書名 Applied Studies of Coastal and Marine Environments	

〔産業財産権〕

〔その他〕

パレオアジア文化史学
http://paleoasia.jp/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	出穂　雅実 (Izuho Masami) (20552061)	東京都立大学・人文科学研究科・准教授 (22604)	
研究分担者	小野　林太郎 (Ono Rintaro) (40462204)	国立民族学博物館・人類文明誌研究部・准教授 (64401)	
研究分担者	中沢　祐一 (Nakazawa Yuichi) (70637420)	北海道大学・医学研究院・助教 (10101)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	高橋　啓一 (Takahashi Keiichi)	滋賀県立琵琶湖博物館・館長 (84202)	
研究協力者	内藤　裕一 (Naito Yuichi)	名古屋大学・博物館・博士研究員 (13901)	
研究協力者	中沢　隆 (Nakazawa Takashi)	奈良女子大学・自然科学系・教授 (14602)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計3件

国際研究集会	開催年
PaleoAsia 2018: The International Workshop	2018年～2018年
国際研究集会	開催年
Across the Movius Line: Cultural Geography of South and Southeast Asia in the Late Pleistocene	2017年～2017年

国際研究集会	開催年
Biological and cultural transitions in the Middle and Upper Palaeolithic in west Asia: Perspectives from PaleoAsia	2017年～2017年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	University of Tulsa	University of California, Berkeley	Texas A&M University	他1機関
モンゴル	モンゴル科学アカデミー歴史学・考古学研究所			
ヨルダン	ヨルダン考古局			
ロシア連邦	ロシア科学アカデミーシベリア支部考古学・民族誌学研究所	ロシア国立ザバイカル大学		
中国	雲南大学	大慶博物館		
ドイツ	The University of Tubingen			
ヨルダン	Department of Antiquities of Jordan			
米国	The University of Tulsa	University of California, Berkeley	テキサスA&M大学	
ロシア連邦	ロシア科学アカデミーシベリア支部考古学・民族誌学研究所	ロシア国立ザバイカル大学		
モンゴル	モンゴル科学アカデミー歴史学・考古学研究所			
ドイツ	The University of Tubingen			
ヨルダン	Department of Antiquities of Jordan			
米国	The University of Tulsa	University of California, Berkeley	テキサスA&M大学	
ロシア連邦	ロシア科学アカデミーシベリア支部考古学・民族誌学研究所	ロシア国立ザバイカル大学		
モンゴル	モンゴル科学アカデミー歴史学・考古学研究所			
ドイツ	The University of Tubingen			
ヨルダン	Department of Antiquities of Jordan			
アメリカ合衆国	The University of Tulsa	University of California, Berkeley	テキサスA&M大学	
ロシア	ロシア科学アカデミーシベリア支部考古学・民族誌学研究所	ロシア国立ザバイカル大学		
モンゴル	モンゴル科学アカデミー歴史学・考古学研究所			

共同研究相手国	相手方研究機関			
ヨルダン	考古局			
モンゴル	科学アカデミー			
アメリカ	タルサ大学	カリフォルニア大学		
フィリピン	フィリピン国立大学			